Pioneer sound.vision.soul

DVD 5.1ch サラウンドシステム

HTZ-555DV

DVD ビデオのリージョン番号

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクには発売地域ごとにリージョンNo.(地域番号)が設けられています。海外で購入したDVDビデオディスクは、リージョンNo.の違いにより再生できない場合があります。本機のリージョン No. は「2」です。

再生できるDVDビデオディスクのリージョン表示の例)   など

DVDレコーダーをお持ちのお客様へ

ファイナライズしてから再生してください

DVDレコーダー → 本機

DVD-R/-RW
ディスク

※DVDレコーダーのビデオモードで記録したDVD-R/-RWディスクを本機で再生するときは、ファイナライズ(録画終了処理)してください。

インターネットによるお客様登録のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

● 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
  付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧(交流100ボルト50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

異常時の処置

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

手を挟まれないよう注意

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(ー)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

🛇 禁止

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

❗ 本機の放熱について

● 本機を設置する場合には、壁から１０ｃm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から１０ｃm以上、背面から１０ｃm以上、側面から１０ｃm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

もくじ

1 はじめに

2 ディスクの再生

3 USB メモリーの再生

4 ラジオを聞く

5 いろいろな機能を使う

6 サラウンド再生

7 タイマーを使う

8 DVD の初期設定

9 サラウンドの設定

10 システムの設定

11 他機器の接続と設定

12 その他

サラウンドシステムを楽しむ前に

ドルビーデジタル、DTSやMPEG-2 AACなどのソースを迫力あるマルチチャンネルでお楽しみいただくために、別添のシステムセットアップガイドをご覧になり下記の順序で接続やスピーカーの配置を行ってください。

STEP 1 箱を開けて付属品を確認する

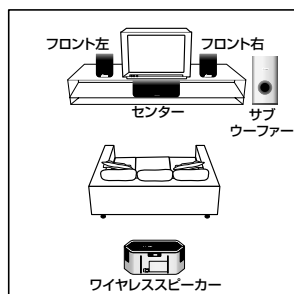
▼

STEP 2 接続する

スピーカー、トランスミッター、テレビ、アンテナなどを本機と接続します。

▼

STEP 3 スピーカーの設置

下の図のようにスピーカーを設置してください。ワイヤレススピーカーを設置するスペースが視聴位置の後方に確保できないときは、ワイヤレススピーカーを視聴位置の左側か右側に設置することができます。詳しくは「ワイヤレススピーカーのいろいろな設置」（40ページ）をご覧ください。

STEP 4 電源を入れる

▼

STEP 5 再生する

↓

サラウンドの自動設定（MCACC）へお進みください。

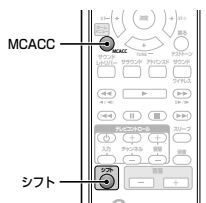
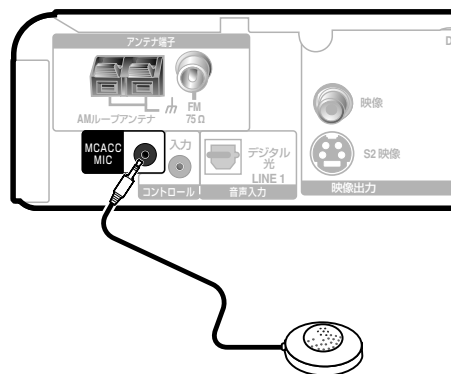
サラウンドの自動設定（MCACC）

本機のMCACC設定では、従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、2分～4分程度です。

注 意

◆ 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。
◆ 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
◆ 付属のマイクをTVモニター近くにおいてセットアップを行わないでください。
◆ ワイヤレスモードがステレオに設定されているときはサラウンドの自動設定を行うことはできません。
◆ ワイヤレスモードがオフに設定されているときはサラウンドの自動設定を行うことはできません。オフ、ステレオ以外のモードを選択するか、市販のサラウンドスピーカーをサラウンド（左、右）端子に接続してください（42ページ）。

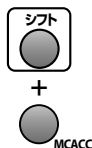
メ モ

▼ 測定中は静かにしてください。
▼ スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
▼ 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
▼ 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
▼ サラウンドの自動設定（MCACC）を行うと、マニュアルで微調整した以下の内容もすべてリセットされます。
・各スピーカーまでの距離（59ページ）
・スピーカー出力レベル（57ページ）

1. セットアップ用マイクの接続を確認します（システムセットアップガイド参照）

セットアップ用マイク

マイクはリスニングポジション（耳の位置）に三脚や台などを使って水平になるように設置します。

2. 電源 ⏻ 電源ボタンを押して電源をオンにします

TUNER 入力以外の入力に切り換えておいてください。

3. シフト＋ MCACC ボタンを押します

SETUP

自動的に音量が上がり、自動設定が始まります。
「PLEASE WAIT」と表示されテストトーンが出力されます。
「ANALYZE」⇔「NOISE」
：部屋の騒音をチェック中
「ANALYZE」⇔「MIC」
：マイクの接続をチェック中
「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：すべてのスピーカーの接続をチェック中
「ANALYZE」⇔「DISTANCE」
：スピーカーまでの適正距離を解析中
「ANALYZE」⇔「CH.LEVEL」
：各 ch の出力バランスを補正中
「ANALYZE」⇔「EQ」
：出力音声の音色を統一

4. ディスプレイに「COMPLETE」と表示されたら自動設定は終了です

アコースティックキャリブレーションEQ が自動的にオンになります。(48ページ)

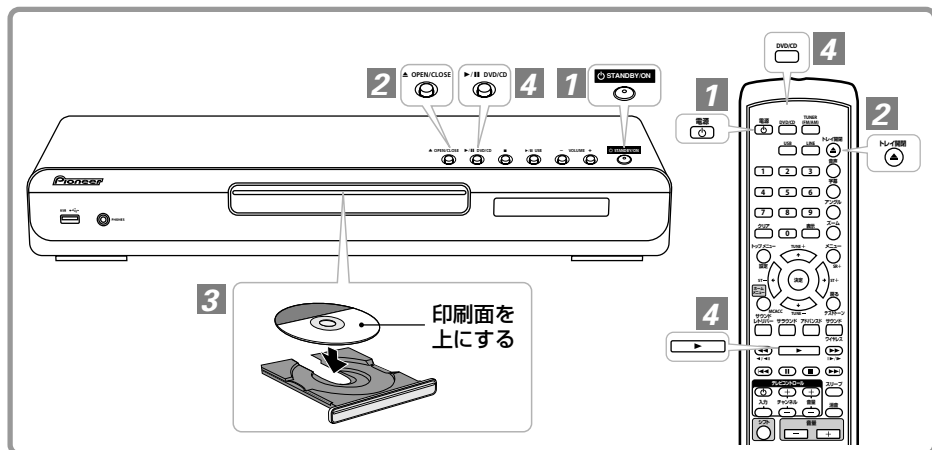
メ モ

- ▼「COMPLETE」と表示されないまま自動設定が中断されたときは、スピーカー、マイクの接続を確認し、もう1度はじめから自動設定をやり直してください。
- ▼ **MCACC ボタン**を押したときに、警告メッセージが点滅することがあります。（80ページ)

自動設定中に以下のエラーメッセージが表示されることがあります。
そのときは「原因／対策」をご覧ください。

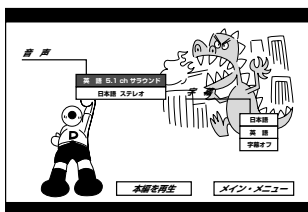
エラー表示	原因／対策
NOISY ⬇ RETRY	部屋の騒音レベルが大きい。 静かにしてから**決定ボタン**を押します。
ERR MIC ⬇ RETRY	セットアップ用マイクが接続されていません。 セットアップ用マイクを接続してから**決定ボタン**を押します
ERR SP ⬇ RETRY	接続されていないスピーカーがあります。 すべてのスピーカーを接続、配置してから**決定ボタン**を押します。

あらかじめテレビとワイヤレススピーカーの電源を入れて、テレビの入力を切り換えておいてください。ワイヤレススピーカーの電源の入れ方はシステムセットアップガイドをご覧ください。

メ モ

- ▼ ディスクテーブルを閉めると自動的に再生を始めるDVDもあります。

メニュー画面が表示されたら

再生を始めると最初にメニュー画面を表示するDVDがあります。メニュー画面の内容や操作方法はDVDによって異なりますが、基本的な操作は以下のとおりです。

1.　リモコンの ⇧⇩⇦⇨ で選択して、決定ボタンで決定します。

メ モ

- ▼ 画面の上下に帯がつくDVDがあります。本機の故障ではありません。
- ▼ DVDのメニューによっては、リモコンの**数字ボタン**で番号を選んで再生できるものもあります。

止めたところから再生する（リジューム機能）

DVD-Video　Video CD　CD(R/RW)　DivX®

では、本体の表示窓に[RESUME]と表示され、停止したところを記憶します。

■**ボタン**を押してディスクを停止するとその場所を記憶するので、次回は続きから再生を開始します(リジューム機能)。また、ディスクを取り出してもDVD5枚、ビデオCD1枚分の停止した場所を記憶しています(ラストメモリー機能)。次回、そのディスクを入れると、取り出す前に停止した場所から再生を始めます。停止中に■**ボタン**をもう一回押すと、リジューム機能またはラストメモリー機能が解除され、次に再生するときはディスクの最初から開始します。

メ モ

- ▼ VR DVD-R/RW　CD(R/RW) では、ラストメモリー機能が働きません。
- ▼ ラストメモリー機能では、別のディスクを記憶すると、ビデオCDでは前のディスクのメモリー、DVDでは一番古いディスクのメモリーが消去されます。
- ▼ ラストメモリーを記憶させたくない場合は、■**ボタン**を押さずに▲**ボタン**でディスクを停止して、取り出してください。
- ▼ リジューム機能は、ディスクを取り出すと解除されます。また、電源を切ったり、入力をDVD/CD以外に切り換えたときも解除されます。

電源を切る

電源を切る前にディスクを取り出しましょう。

1. 電源 ⏻ 本体の⏻STANDBY/ONボタンまたはリモコンの電源ボタンを押します

メ モ

▼ 電源コードをコンセントから抜くときは、本体表示窓の[GOOD BYE]表示が消えていることを確認してください。[GOOD BYE]表示中に抜くと本機の設定がお買い上げ時の設定に戻ることがあります。

Q&A

Q1:電源が入らない!

→ 電源コードが正しくコンセントに接続されていますか?(システムセットアップガイド)

Q2:映像が映らない!

→ ビデオコード(黄)が正しく接続されていますか?(システムセットアップガイド)

→ テレビの入力切換を合わせましたか?接続したビデオ入力に合わせてください。

Q3:リモコンで操作できない!

→ 本体との距離が離れすぎていませんか?約7mの範囲でのみ操作することができます。

→ リモコンをテレビに向けて操作していませんか?本体のリモコン受光部に向けて操作してください。(13ページ)

→ MCACCセットアップ用マイクをコントロール端子に接続していませんか?接続を確認してください。(9ページ、システムセットアップガイド)

Q4:ディスクテーブルを閉めても出てきてしまう。または、再生ができない!

→ ディスクがディスクテーブルに正しくセットされていますか?

→ ディスクが汚れていませんか?ディスクをクリーニングしてください。

→ ディスクの表裏が正しくセットされていますか?

→ リージョンNo.が一致していますか?本機で再生できるリージョンNo.は「2」と「ALL」のみです。(74、77ページ)

→ 本機の内部が結露している可能性があります。結露を除去してください。(85ページ)

Q5:音が出ない!

→ 音量がゼロになっていませんか?音量を調整してください。

→ ヘッドホンが挿入されていませんか?ヘッドホンを抜いてください。

→ ワイヤレスモードが「**STEREO**」になってませんか?このモードが設定されているときは、ワイヤレススピーカーからのみ音声が出力されます。(42ページ)

Q6:フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ない!

→ 接続が正しくされているか、別添の「システムセットアップガイド」を参照してください。

→ **サラウンドボタン**または**アドバンスドボタン**を押して、マルチチャンネル再生に切り換えてください。(43~45ページ)

→ TUNER入力になっていませんか? TUNER入力時はサラウンド再生できません。サラウンド再生はTUNER入力以外でお楽しみください。

→ ワイヤレスモードが「**OFF**」になっていませんか?「**NORMAL**」または「**WIDE**」、「**LEFT**」、「**RIGHT**」のいずれかに切り換えてください。(42ページ)

→ サラウンド効果が不十分なときは「スピーカー出力レベルの調整」(57ページ)をご覧になり、SR(サラウンド右)、SL(サラウンド左)チャンネルのレベルを調整してください。

→ ワイヤレススピーカーの**TUNEDインジケーター**は点灯していますか?トランスミッターの**チャンネル選択ボタン**を押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。(17ページ)

再生できるディスクの種類

・本機は NTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
・下記のマークはディスクレーベル、パッケージ、またはジャケットに付いています。

DVD	市販ディスク		DVD-R	DVD-RW
CD	ビデオCD	CD	CD-R	CD-RW
フジカラーCD	FUJICOLOR CD COMPATIBLE		：このマークは、富士写真フイルム(株)の商標です。	
コダックピクチャーCD				

DVD は DVD フォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。

コピーコントロール CD について
当製品は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。

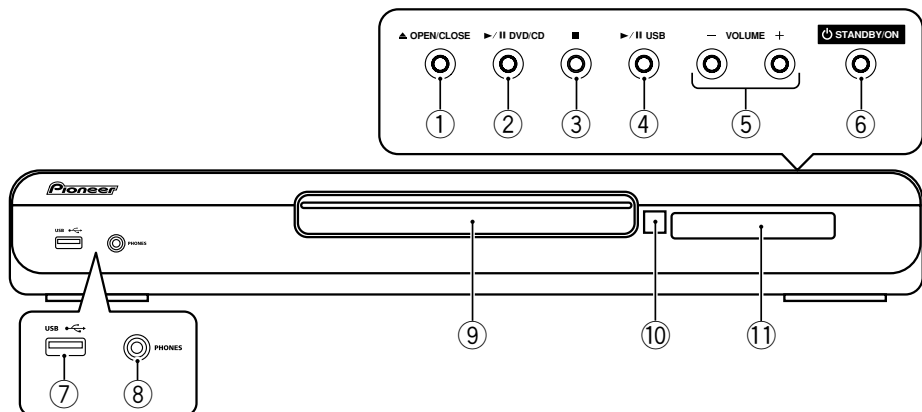
本機で再生できないディスクの種類
DVD オーディオ、DVD-RAM、SACD、CD-G、リージョン No. が **「2」「ALL」** 以外の DVD ビデオなど

DVD レコーダーなどで記録したディスクについて
- DVDビデオフォーマットまたはVRモードで記録されたDVD-R/RW/R DL（2層ディスク）を再生することができます。
- DVDビデオフォーマットまたはVRモードで記録されたDVD+R/RW/R DL（2層ディスク）を再生することができます。

本文中の表記について

この取扱説明書では、本文中に記号が記載されています。記号には次のような意味があります。

- **DVD-Video** **市販のDVDビデオ、またはビデオモードで記録されたDVD-R/RW/R DL（2層ディスク）および DVD+R/RW/R DL（2 層ディスク）**
- **VR DVD-R/RW** **VR モードで記録された DVD-R/RW、DVD-R DL（2 層ディスク）**
- **Video CD** **ビデオ CD**
- **CD(R/RW)** **市販の音楽用 CD、または CDDA フォーマットで音楽が記録された CD-R/RW**
- **WMA/MP3** **WMAまたはMP3ファイルが記録されたDVD-R/RW、CD-R/RW、USBメモリー**
- **MPEG-4 AAC** **MPEG-4 AACファイルが記録されたDVD-R/RW、CD-R/RW、USBメモリー**
- **JPEG** **JPEG ファイルが記録された DVD-R/RW、CD-R/RW、USB メモリー**
- **DivX®** **DivX フォーマットで記録された DVD-R/RW、CD-R/RW**

本体

① ⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクテーブルを開閉します。

② ►/II DVD/CDボタン
ディスクを再生 / 一時停止します。

③ ■ ボタン
ディスクやUSBメモリーを停止します。

④ ►/II USBボタン
USBメモリーを再生/一時停止します。

⑤ VOLUMEボタン
音量を調節します。

⑥ ⏻ STANDBY/ONボタン
電源を入れます/ 切ります。

⑦ USB端子
USB メモリーを接続します。

⑧ ヘッドホン端子
市販のヘッドホンを接続します。インピーダンス16 Ω～50 Ω（推奨32 Ω）、直径3.5 Φステレオミニプラグ付のヘッドホンをお使いください。
ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は出ません。

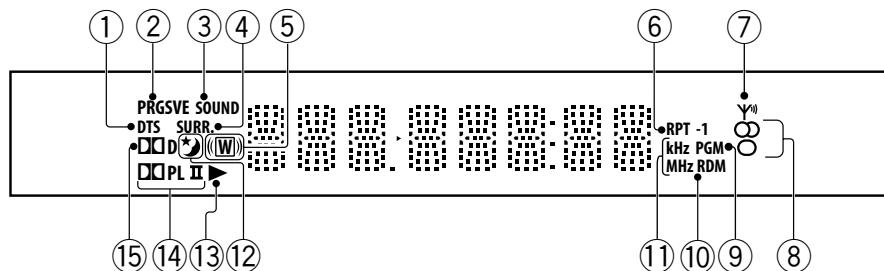
⑨ ディスクテーブル

⑩ リモコン受光部
約7 m左右30°以内の距離から、ここにリモコンを向けて操作します。

⑪ 表示窓

注 意

◆ 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。
◆ 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因になることがあります。

表示

① DTS信号を再生しているときに点灯します。

② 映像出力方式でプログレッシブが選択されているときに点灯します。（52ページ）

③ サウンドレトリバー機能を使っているときに点灯します。（46ページ）

④ アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに「SURR.」が点灯します。（44～45ページ）

⑤ ワイヤレスモードが「NORMAL」「WIDE」「LEFT」「RIGHT」のいずれかに設定されているときに点灯します。「STEREO」に設定されているときは点滅し、「OFF」に設定されているときは消灯します。（42ページ）

⑥ タイトル/ディスクリピート再生時にはRPTと点灯し、チャプター/トラックリピート再生時は、RPT-1と点灯します。（28ページ）

⑦ FM/AM放送受信時に点灯します。

⑧ FM放送でステレオ受信していると、ꝏが点灯します。

FM放送の受信設定をモノラルに設定するとOが点灯します。（25ページ）

⑨ プログラム再生時に点灯します。（29ページ）

⑩ ランダム再生時に点灯します。（28ページ）

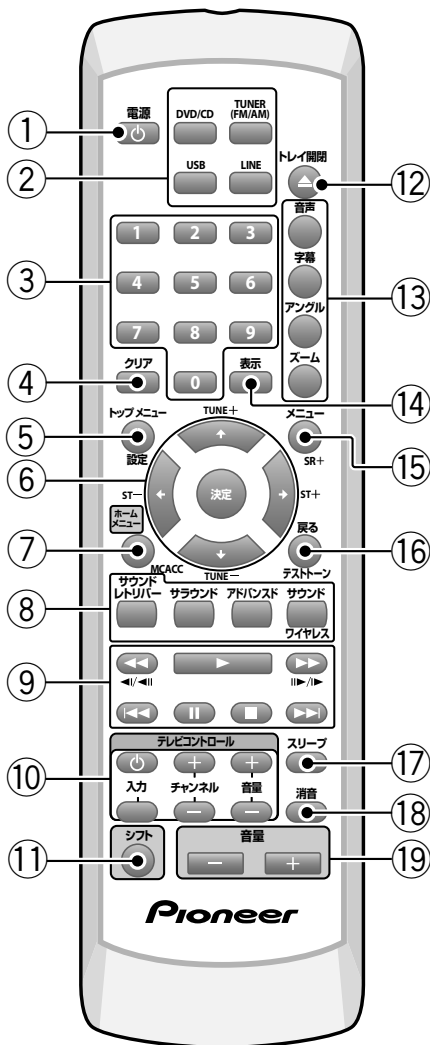
⑪ AM放送局の周波数が表示されているときにkHzが点灯します。（25ページ）
FM放送局の周波数が表示されているときにMHzが点灯します。（25ページ）

⑫ スリープタイマー設定時に点灯します。（50ページ）

⑬ ディスクやUSBメモリーを再生しているときに点灯します。

⑭ ドルビープロロジック II 処理が行われているときに点灯します。（43ページ）

⑮ ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。

リモコン

① ⏻ 電源ボタン

② DVD/CDボタン

DVD や CD を再生したり、一時停止するときに使用します。

TUNER(FM/AM)ボタン

ラジオを聞いたり、FM 局と AM 局を切り換えるときに使用します。

USBボタン

本機に接続したUSBメモリーを再生したり、一時停止するときに使用します。

LINEボタン

本機に接続した外部機器の音を聞くときに使用します。

③ **数字ボタン**

④ **クリアボタン**

プログラム再生で設定した内容を取り消します。

⑤ **トップメニューボタン**

DVD ソフトの最上層のメニュー画面を表示します。

設定ボタン

シフトボタンを押しながら使用します。各種設定を行います。

⑥ ⇧ ⇩⇦ ⇨ /**決定ボタン**

項目の選択や変更、または DVD などのメニューや設定画面で、カーソルを上下左右に移動し、**決定ボタン**で決定するときに使用します。

TUNE＋/ −ボタン（25 ページ）

ST＋/ −ボタン（25 〜 26 ページ）

⑦ **ホームメニューボタン**

ホームメニュー画面を表示したり、操作 / 設定の途中で画面をオフにします。

MCACCボタン（8ページ）

シフトボタンを押しながら使用します。サラウンドの自動設定を行うときに使用します。

⑧ **サウンドレトリバーボタン**（46ページ）

サウンドレトリバー機能の切り換えを行うときに使用します。

サラウンドボタン（43ページ）

アドバンスドボタン（45ページ）

サウンドボタン（46ページ）
サウンドモードの設定や調整を行うときに使用します。

ワイヤレスボタン（42ページ）
シフトボタンを押しながら使用します。ワイヤレスモードを切り換えるときに使用します。

⑨ **►ボタン**
ディスクやUSBメモリーを再生するときに使用します。

■ ボタン
ディスクやUSBメモリーを停止するときに使用します。

II ボタン
ディスクや USB メモリーを一時停止するときに使用します。

◄◄/◄I/◄II ボタン（20、23ページ）

►►/II►/I► ボタン（20、23ページ）
再生中は映像や音声の早送り / 早戻しをします。一時停止中に押すとコマ送り / コマ戻し再生を行い、押し続けるとスロー再生をします。

I◄◄ ボタン
現在再生中のチャプター / トラック / ファイルの始めに戻ります。

►►I ボタン
現在再生中のチャプター / トラック / ファイルの次に進みます。

⑩ **テレビコントロールボタン**
以下のボタンでパイオニアのプラズマディスプレイを操作することができます。（操作できないプラズマディスプレイも一部あります）

テレビ ⏻
テレビの電源を入れます。

テレビ入力ボタン
テレビのライン入力を切り換えます。

テレビチャンネルボタン
テレビのチャンネルを変更します。

テレビ音量ボタン
テレビの音量を調整します。

⑪ **シフトボタン**

⑫ **▲トレイ開閉ボタン（10ページ）**

⑬ **音声ボタン（35ページ）**
言語、または音声を切り換えるときに使用します。

字幕ボタン（35ページ）

アングルボタン（36ページ）
DVDのアングルを切り換えるときに使用します。また、JPEGの画像を回転させるときにも使用します。

ズームボタン（34ページ）

⑭ **表示ボタン（37ページ）**

⑮ **メニューボタン**
ディスクまたはUSB メモリーのメニュー画面を表示するときに使用します。また、

WMA/MP3 MPEG-4 AAC JPEG VR DVD-R/RW Video CD DivX® では、ナビゲーター画面を表示するときに使用します。

SR+ボタン（66～68ページ）
シフトボタンを押しながら使用します。接続したプラズマディスプレイと連動させて各種システムの設定を行います。

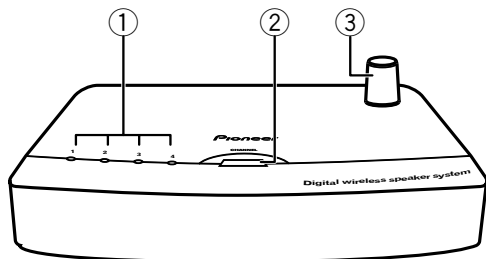
⑯ **戻るボタン**
DVDの初期設定画面やメニュー画面が表示されているときに押すと、1つ前の項目に戻ります。

テストトーンボタン（58ページ）
シフトボタンを押しながら使用します。

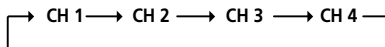
⑰ **スリープボタン（50ページ）**
スリープタイマーの設定を行います。

⑱ **消音ボタン**
音を一時的に消す（ミュートする）ときに押します。もう一度押すとミュートは解除され、消音する前の音量に戻ります。

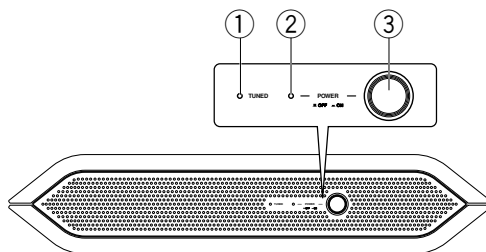
⑲ **音量ボタン**

トランスミッター

① チャンネルインジケーター
②の**チャンネル選択ボタン**によって選択された周波数チャンネルが点灯します。

② チャンネル選択ボタン
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を４つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなることがあります。押すたびに以下のように切り換わります。

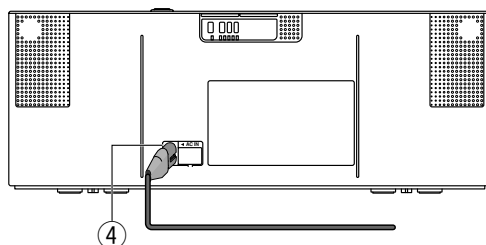
→ CH 1 → CH 2 → CH 3 → CH 4 ─┘

③ アンテナ
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

ワイヤレススピーカー

上面部

① TUNEDインジケーター
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

② POWERインジケーター
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

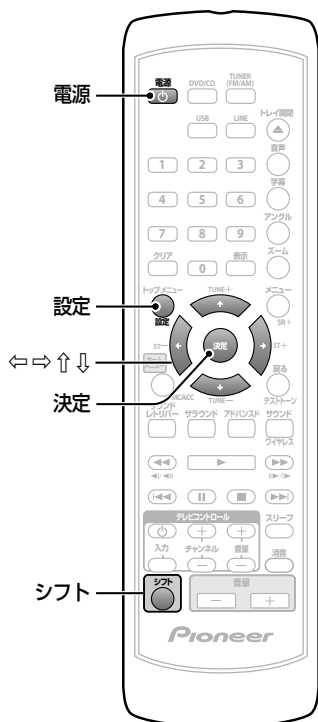
③ 電源ボタン
ワイヤレススピーカーの電源をオン/オフします。

背面部

④ ACインレット
付属の電源コードを差し込みます。

メ モ

▼ ワイヤレススピーカーのアンテナは内蔵されています。

デモ表示を解除する

電源コードをコンセントに差し込んだときなど、表示部にいろいろな表示を自動的に行うことを、デモ表示といいます。

注 意

◆ デモ表示を解除した場合でも、電源コードを抜いたり停電した状態が長時間続くと、再度電源コードをコンセントに差したり通電が再開したときに、デモ表示をする場合があります。
◆ 初期化するとデモ表示を行います。(89ページ)

一時的にデモ表示を解除するには

本体かリモコンのいずれかのボタンを押します

デモ表示を一時的に解除します。
ただしこの場合、以下のときに再びデモ表示を開始します。
・ 電源コードをコンセントに差し込んだとき
・ 再生が終了して、5分以上何も操作がなかったとき
・ 停電したあと

デモ表示をしないように設定するには

1.

⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2.

シフト+設定ボタンを押します

3.

⇦⇨で“DEMO”にしてから決定ボタンを押します

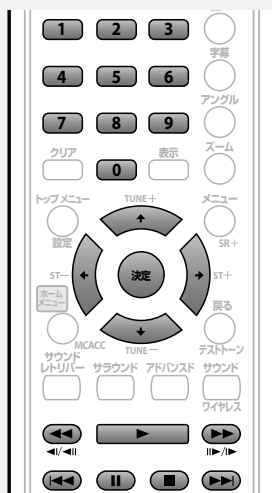
DEMO

4.

⇧⇩で“DEMO OFF”にしてから決定ボタンを押します

DEMO OFF

電源がオフになりデモ表示が解除されます。再びデモ表示を設定する場合は、“DEMO ON”にします。その場合はDVDファンクションに切り換わります。

再生

再生します

- DVD-Video では、再生を開始するとメニュー画面を表示するディスクがあります。メニュー画面の操作については 10 ページをご覧ください。
- Video CD では、再生を開始するとメニュー画面を表示するディスクがあります。メニュー画面の操作については 37 ページをご覧ください。
- WMA/MP3 MPEG-4 AAC では、ディスク情報を読み込み中に、画面に**[読込中]**と表示されます。表示が消えてから再生してください。
- JPEG と WMA/MP3 MPEG-4 AAC が同じディスクに記録されているときは、**►ボタン**を押すと、ディスクに含まれる画像ファイルと音楽ファイルを同時におのおの繰り返し再生します。（34 ページ）
- DivX® と WMA/MP3 MPEG-4 AAC または JPEG が同じディスクに記録されているときは、まずはじめに、どのフォーマットを再生するかテレビ画面で選択します。

停止

停止します

一時停止

一時停止します

- 通常の再生に戻すには、一時停止中に ►、または ❚❚ **ボタン**を押します。

頭出し（スキップ）

再生中に ▶▶I（または I◀◀）ボタンを押します

- 押した回数だけチャプター / トラック / ファイルをスキップします。

早送り / 早戻し再生

再生中にリモコンの ▶▶（または ◀◀）ボタンを押します

- ボタンを押すたびに速さを切り換えることができます（DivX®では速さを切り換えることはできません）。
- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。

コマ送り/コマ戻し再生

再生中に II ボタンを押して一時停止させ、II▶/I▶（または ◀I/◀II）ボタンを押します

- コマ送り / コマ戻し再生は音声が出力されません。
- コマ送り / コマ戻し再生ができないディスクもあります。
- 再生方向を変更したとき、一瞬映像が動くことがあります。

- コマ戻し再生中、映像が揺れることがあります。
- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。
- Video CD DivX®では、コマ戻し再生をすることができません。

スロー再生

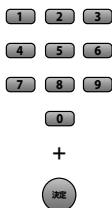
再生中に II ボタンを押して一時停止させ、II▶/I▶（または ◀I/◀II）ボタンを押し続けます

- 画面にスローの表示が出たら、手を離してもスロー再生を続けます。
- スロー再生中、ボタンを押すたびに速さを切り換えることができます。
- スロー再生は音声が出力されません。

- スロー再生ができないディスクもあります。
- 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。
- Video CD DivX®では、逆方向のスロー再生ができません。

ダイレクトサーチ

タイトル / チャプター / トラックを指定して再生することができます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 + 決定

数字（0～9）ボタンでタイトル / チャプター / トラック番号を入力して、決定ボタンを押します

再生中にできるダイレクトサーチの種類

DVD-Video	VR DVD-R/RW	Video CD　CD(R/RW)
チャプターサーチ	タイトルサーチ	トラックサーチ

- ダイレクトサーチができないディスクもあります。
- DVD-Video のチャプターサーチでは、再生中のタイトル内のチャプターのみを指定することができます。
- ディスク停止中にダイレクトサーチを行うと、DVD-Videoは**タイトルサーチ**になります。

Q&A

Q1: Video CD　CD(R/RW)が再生できない。

→ パソコンで作成されたVideo CD　CD(R/RW)は再生できないことがあります。

Q2: WMA/MP3　MPEG-4 AACが再生できない。

→ 記録したCDがISO9660フォーマットに準拠していない。またはDVDがUDF Bridge（UDF ブリッジ）フォーマットに準拠していない。

→ サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、または 48 kHz で記録されていないファイルを再生している。

→ 可変ビットレート（VBR）またはロスレスエンコーディングのファイルを再生している。

→ DRM コピープロテクト（著作権保護）のかかったファイルを再生している。

Q3: JPEGが再生できない。

→ 記録したCDがISO9660フォーマットに準拠していない。またはDVDがUDF Bridge（UDF ブリッジ）フォーマットに準拠していない。

→ 総ピクセル数が3072 × 2048ピクセル以下のベースラインJPEGファイルではない。

→ プログレッシブ JPEG ファイルは再生できません。

Q4: DivX®が再生できない。

→ DivX®ビデオの再生以外には対応していません。お手持ちのメディアのエンコード方式等をご確認ください。

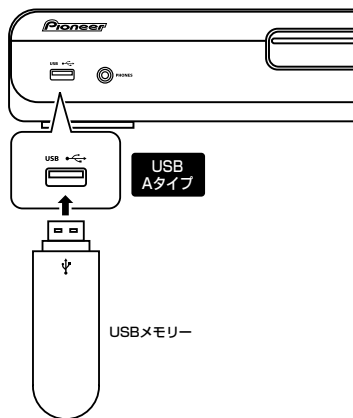
お手持ちのUSBメモリーを本機に接続することで、USBメモリーに記録されている音楽ファイルや画像ファイルを本機で再生することができます。ステレオまたはモノラル音声を再生することができます。

メモ

- ▼ 本機で再生できるUSBメモリーのファイルは、JPEG、WMA、MP3、MPEG-4 AACのいずれかで、DRMコピープロテクト（著作権保護）のかかっていないファイルのみです。USBメモリーのDivXファイルを再生することはできません。
- ▼ 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルや画像ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機（FAT16、FAT32のフォーマットに対応）などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- ▼ 本機ではすべてのUSBメモリーの再生および電源の供給を保証できない場合があります。また、万が一本機と接続したことでUSBメモリーのファイルが損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- ▼ 容量の大きいUSBメモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- ▼ USBハブには対応しておりません。

USBメモリーを再生するための接続

接続のしかた

本機のUSB端子にUSBメモリーを接続します。

本機で聞くには

USBボタンを押します

取り外すには

本機の電源をオフにして、USBメモリーを取り外します

注 意

◆ USBメモリーの消費電力が大きすぎて電力が供給できないと「USB ERR」が表示されます。下記の操作を行ってみてください。それでも「USB ERR」が表示されるときは、USBメモリーが本機に対応していないということになります。

- 本機の電源をオフにしてから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源をオフにしてからUSBメモリーを抜き、再度USBメモリーを接続し、電源を入れてみてください。
- USB以外の入力に切り換えてから、再度USB入力にしてみてください。
- ACアダプターが付属されているUSBメモリーをお使いの場合は、ACアダプターを接続して使用してみてください。

いろいろな再生のしかた

再生

再生します

停止

停止します

一時停止

一時停止します

頭出し（スキップ）

再生中に▶▶|（または|◀◀）**ボタン**を押します

再早送り / 早戻し再生

再生中にリモコンの ▶▶（または ◀◀）**ボタン**を押します

ナビゲーターを使って再生する

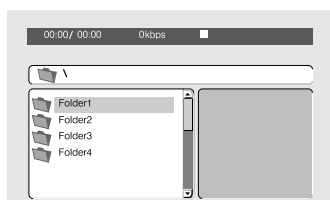
あらかじめテレビの電源を入れて、テレビの入力を切り換えておいてください。

1.

メニューボタンを押してナビゲーター画面を表示させます

2.

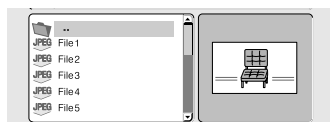
⇧ ⇩ でフォルダーを設定して、決定ボタンを押します

ナビゲーター画面に表示されるフォルダー / ファイル名がUSBメモリー側に表示されるフォルダー/ファイル名と異なることがあります。

3.

⇧ ⇩ で再生したいファイル（トラック / タイトル）を選択します

- JPEG でファイルにカーソルを合わせると、選択されているファイルの画像が表示されます。
- ⇦ **ボタン**を押すと、前の画面に戻ります。

＊ WMA/MP3 MPEG-4 AAC の場合

＊ JPEG の場合

4. **決定ボタンを押します**

- 選択したファイルから再生を開始します。
- JPEG では、画像が次々に表示されます(スライドショー)。
- スライドショーで表示される画像のアスペクト比が異なるときは、画像の縦、または横に黒帯が出ることがあります。
- **メニューボタン**を押すと、ナビゲーター画面が終了します。

メモ

▼ WMA/MP3 MPEG-4 AAC JPEG では、メモリー情報の読み込み中に、画面に**[読込中]**と表示されます。表示が消えてから再生してください。

▼ - - を選択して**決定ボタン**を押しても、上の階層に戻すことができます。

▼ ナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。フォルダーをまたいで再生したいときは、USBメモリーを接続したあとに ▶ **ボタン**を押して再生を開始してください。

音楽を聞きながら画像ファイルを再生する

USB メモリーに音楽ファイルと画像ファイルが両方含まれているときは、音楽ファイルを聞きながらスライドショーを表示することができます。

1. メニュー **メニューボタンを押してナビゲーター画面を表示させます**

2. 決定 **⇧ ⇩ でフォルダーを設定して、決定ボタンを押します**

3. **⇧ ⇩ で音楽ファイルを選択して、決定ボタンを押します**

音楽ファイルを再生します。

4. **⇧ ⇩ で画像ファイルを選択して、決定ボタンを押します**

音楽ファイルを再生しながら、スライドショーで画像ファイルが表示されます。音楽ファイルと画像ファイルは、フォルダー内で繰り返し再生します。
この時、**▶、II、I◀◀、▶▶I ボタン**での操作は画像ファイルが対象となります。

メモ

▼ ナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。フォルダーをまたいで再生したいときは、USBメモリーを接続したあとに ▶ **ボタン**を押して再生を開始してください。その際、**II、◀◀、▶▶、I◀◀、▶▶I ボタン**での操作は音楽ファイルが対象となります。

アンテナが接続されていないと、FM/AM 放送を聞くことはできません。別添の**「システムセットアップガイド」**を参照して、アンテナを接続してください。

1. TUNER (FM/AM)

TUNER ボタンを押します

ラジオが聞ける状態になります。

FM 76.00 MHz

AM 522 kHz

押すたびに、FM と AM が切り換わります。
FM放送を聞くときはFMを、AM 放送を聞くときは AM を選択してください。

2.

⇧ ⇩ を押して、聞きたい放送局に周波数を合わせます

周波数の合わせ方（チューニング）には、以下の３種類があります。

オートチューニング

⇧ ⇩ を押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。
周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。
途中で止めるときは、もう一度⇧⇩を押すか、■**ボタン**を押します。

マニュアルチューニング

⇧ ⇩ を 1 回ずつ押します。
周波数が 1 ステップずつ変化します。

ハイスピードマニュアルチューニング

⇧ ⇩ を押し続けます。
ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

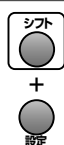
FM 放送の雑音を減らす

遠い放送局や電波の弱い地域などで、FM のステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくします。
お買い上げ時は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える“AUTO”に設定されています。

1. TUNER (FM/AM)

TUNER ボタンを押して雑音を減らしたい FM 放送局を受信します

2. シフト ＋

シフト＋設定ボタンを押します

3.

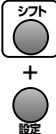
⇦ ⇨ で“FM MODE”にしてから、決定ボタンを押します

FM MODE

現在の設定が表示されます。

4.

⇧ ⇩ で“FM MONO”にしてから、決定ボタンを押します

FM MONO

表示部に、○ が点灯します。
FM ステレオ放送をステレオで受信するように設定する場合は、“FM AUTO”にします。

受信した放送局を記憶する

FM/AM 放送合わせて 30 局まで、ステーション（記憶番号）に記憶することができます。

1.
TUNER ボタンを押し、記憶したい放送局を受信します

放送局の受信のしかたは、25ページを参照してください。

2. シフト＋設定

シフト＋設定ボタンを押します

3. **⇦ ⇨ で"ST.MEM."にしてから、決定ボタンを押します**

ST . MEM .

4.

⇧ ⇩ で、記憶するステーションを選びます

記憶するためのステーションは1～30 までであります。

01 76.00 MHz

5. 決定

決定ボタンを押して記憶させます

記憶した放送局を呼び出す

各ステーション（記憶番号）に記憶させた放送局を聞くことができます。

1. TUNER (FM/AM)

TUNER ボタンを押します

ラジオが聞ける状態にします。

2. **⇦ ⇨ で、記憶したステーションを選びます**

01 76.00 MHz

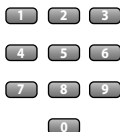
リモコンの数字ボタンで呼び出す

1. **ステーション番号と同じ数字ボタンを押します**

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

（例）ステーション２ ： 2

ステーション 18 ：

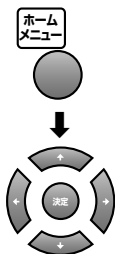
2. 決定

決定ボタンを押します

ダイレクトにステーションを選ぶことができます。
数字ボタンを押して 2 秒以上待つと、**決定ボタン**を押さなくても選ぶことができます。

注 意

◆ すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。
◆ 停電時など、ステーションに記憶した内容が消えてしまう場合があります。

プレイモード画面を表示する

以下のいろいろな機能を使うにはプレイモード画面を表示しなければならないことがあります。プレイモード画面は以下の手順で表示します。プレイモード画面は本機の入力がDVD（CD）入力のときのみ表示することができます。

1. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

2. [プレイモード]を選択して、決定ボタンを押します

3. ⇧⇩⇦⇨ボタンと決定ボタンでそれぞれの項目を選択して、決定します

メ モ

▼ Video CD のPBC再生中は、プレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから表示してください。（37ページ）

指定した部分を繰り返し再生する（A-Bリピート）

DVD-Video　VR DVD-R/RW　Video CD　CD(R/RW)

1. 再生中にプレイモード画面を表示させ（上記）、[A-Bリピート]を選択します

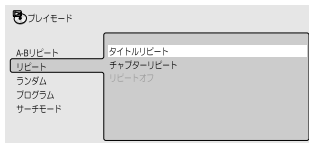
2. [A（開始箇所）]を選択して、開始したい箇所で決定ボタンを押します

3. [B（終了箇所）]を選択して、終了したい箇所で決定ボタンを押します

A-Bリピート再生を開始します。
解除するときは、[**オフ**]を選択します。

注 意

◆ 異なるタイトルをまたいでA-Bリピート再生をすることはできません。
◆ A-Bリピート再生ができないディスクもあります。

繰り返し再生する（リピート）

1. **再生中にプレイモード画面を表示させ（27ページ）、[リピート]を選択します**

2. **リピート再生の種類を選び、決定ボタンを押します**

リピート再生を開始します。

- **タイトルリピート**
- **ディスクリピート**
- **トラックリピート**
- **チャプターリピート**
- **プログラムリピート**

リピート再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。
解除するときは**[リピートオフ]**を選択します。

メ モ

▼ ディスクを停止するとリピート再生は解除されます。

注 意

◆ リピート再生ができないディスクもあります。

順不同に再生する（ランダム）

1. **再生中にプレイモード画面を表示させ（27ページ）、[ランダム]を選択します**

2. **ランダム再生の種類を選び、決定ボタンを押します**

次のタイトルなどからランダム再生を開始します。

- **ランダムタイトル**
- **ランダムチャプター**
  再生中のタイトル内のチャプターを順不同に再生します。
- **ランダムオール（ランダムオン）**
  ディスク内のトラックを順不同に再生します。

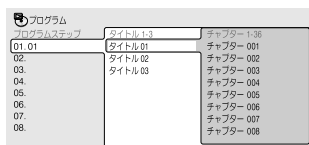
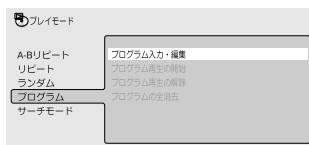
ランダム再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。
解除するときは、**[ランダムオフ]**を選択します。

メ モ

▼ ディスクを停止するか、**ランダムオフ**を選択するとランダム再生は解除されます。
▼ ランダム再生中に▶▶I**ボタン**を押すと、本機が順不同に次のタイトルなどを選んで再生します。また I◀◀ **ボタン**を押すと、現在再生中のタイトルなどの始めから再生します。

注 意

◆ ランダム再生できないディスクもあります。
◆ ランダム再生とプログラム再生を同時に行うことはできません。

好みの順に再生する（プログラム）

＊ディスクによってプログラム入力、編集画面が異なります。

1. **プレイモード画面を表示させ（27ページ）、[プログラム]を選択します**

2. **[プログラム入力・編集]を選択して、決定ボタンを押します**

3. **プログラムしたいタイトル/チャプター/トラックを選択して、決定ボタンを押します**

プログラム入力中に**戻るボタン**を押すと、プログラムした内容が無効になります。

4. **手順３を繰り返して、他のタイトルなどを入力します**

ステップの間にプログラムを追加したいときは

①プログラムステップの追加したい箇所にカーソルを合わせます。

②追加するタイトルなどを選択して決定ボタンを押します。

追加した箇所にあったタイトルなどは、新しいプログラムの後ろに移動します。

入力中にプログラムを削除したいときは

①削除したいプログラムステップにカーソルを合わせます。

②クリアボタンを押します

プログラムが削除され、その後ろにあったタイトルなどが１つ前に繰り上がります。

5. **▶ボタンを押します**

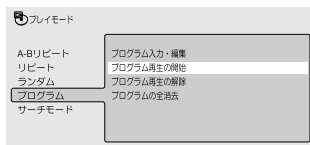
プログラムした順に再生を開始します。

メ モ

- ▼ プログラム再生中に、⏮ ⏭ **ボタン**を押すと、プログラムされた前後の曲に移ります。
- ▼ プログラム再生中にプレイモード画面の**[リピート]**から**[プログラムリピート]**を選択すると、プログラムした内容を繰り返し再生します。**(プログラムリピート再生)**
- ▼ プログラム再生をランダム（順不同に）再生することはできません。

注 意

- ◆ プログラム再生できないディスクもあります。
- ◆ タイトル/チャプターが変わるときに、プログラムしていないタイトル/チャプターの映像が見えることがあります。これは故障ではありません。

プログラム再生を開始 / 解除 / 全消去するには

- **プログラム再生の開始**
  すでにプログラムされている内容を始めから再生します。
- **プログラム再生の解除**
  通常の再生に戻ります。プログラムされている内容はそのまま残ります。
- **プログラムの全消去**
  プログラムされている内容をすべて消去します。

見たい場面を探す（サーチモード）

1. プレイモード画面を表示させ（27ページ）、[サーチモード]を選択します

2. サーチモードの区分を選び、決定ボタンを押します

- タイトルサーチ
- タイムサーチ
  （Video CD CD(R/RW) では、再生中のトラック内の時間を、DVD-Video DivX® では再生中のタイトル内の時間を指定して再生します。）
- チャプターサーチ
- トラックサーチ
  サーチモードの種類は、再生しているディスクによって異なります。

3. 数字（0～9）ボタンで再生したいタイトル / チャプター / トラックまたは時間を入力して、決定ボタンを押します

指定したタイトル / チャプター / トラックまたは時間から再生を開始します。

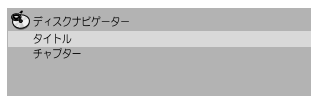
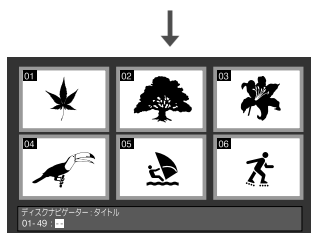
タイムサーチを選択したとき
21分43秒を再生するには、**2,1,4,3**を押して、**決定ボタン**を押します。
1時間4分（64分00秒）を再生するには、**6,4,0,0**を押して、**決定ボタン**を押します。

メ モ

▼ タイムサーチは、再生中のみ選択することができます。

▼ DVD-Video では、ディスクメニューで見たい場面を探す（サーチする）ことができるディスクがあります。このときは、リモコンの**メニューボタン**でディスクメニューを表示させてサーチしてください。

▼ DivX® では、タイムサーチのみ選択することができます。

ディスクナビゲーターを使って再生する

＊ ディスクによって表示内容が異なります。

1. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

2. [ディスクナビゲーター]を選んでから、決定ボタンを押します

3. ⇧⇩で種類を選択します

DVD-Video	VR DVD-R/RW	Video CD
タイトル チャプター	オリジナル：タイトル オリジナル：時間 プレイリスト：タイトル プレイリスト：時間	トラック 時間

- **[時間]**を選択すると、10分おきの画像を表示します。

4. 先頭の画面が6枚ずつ表示されるので、再生したいタイトルなどを探します

- **►►| ボタン**を押すと、次の6枚に切り換わります（**|◄◄ ボタン**で戻ります）。
- **ホームメニューボタン**を押すと、ディスクナビゲーター画面が終了します。
- **戻るボタン**を押すと、ディスクナビゲーターの種類を選択する画面に戻ります。

5. 数字ボタンで番号を入力して決定ボタンを押す

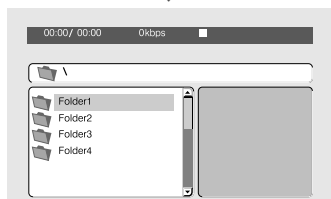
- 番号にカーソルを合わせて**決定ボタン**を押しても再生することができます。

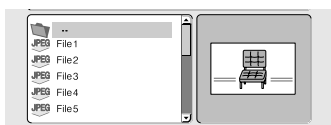
メモ

▼ Video CD のPBC再生中はホームメニュー画面を表示することができません。PBC再生を解除してください（37ページ）。

▼ DVDレコーダーで録画して作られたタイトルを**[オリジナル]**、オリジナルをもとに編集用に作成したタイトルを**[プレイリスト]**といいます。

▼ プレイリストが作成されていないときは、メニュー画面に**[プレイリスト]**は表示されません。

▼ 一部の DVD-Video では、ディスクナビゲーターが使用できない場合があります。

＊ WMA/MP3 MPEG-4 AAC の場合

＊ JPEG の場合

＊ DivX® の場合

1. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

2. [ディスクナビゲーター]を選択して、決定ボタンを押します

3. ⇧⇩ でフォルダーを選択して、決定ボタンを押します

- 半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダー / トラック / ファイル名は文字化けしたり、[F_001]/[T_001]/[FL_001]のように表示されることがあります。

4. ⇧⇩ で再生したいトラック/ファイル/タイトルを選択します

- JPEG でファイルにカーソルを合わせると、選択されているファイルの画像が表示されます。
- ⇦ **ボタン**を押すと、上の階層に戻すことができます。

5. 決定ボタンを押します

- 選択したトラック/ファイルから再生を開始します。
- JPEG では、画像が次々に表示されます（スライドショー）。
- スライドショーで表示される画像のアスペクト比が異なるときは、画像の縦、または横に黒帯が出ることがあります。
- **ホームメニューボタン**を押すと、ディスクナビゲーター画面が終了します。

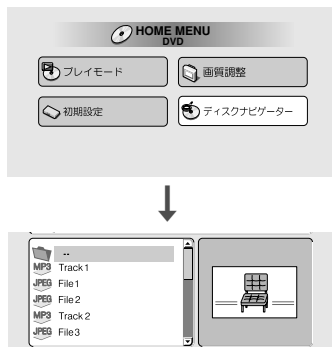
メ モ

▼ WMA/MP3 MPEG-4 AAC JPEG DivX® では、ディスク情報の読み込み中に、画面に**[読込中]**と表示されます。表示が消えてから再生してください。

▼ - - を選択して**決定ボタン**を押しても、上の階層に戻すことができます。

▼ ディスクナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。フォルダーをまたいで再生したいときは、ディスクをセットしたあとに ▶ **ボタン**を押して再生を開始してください。

音楽を聞きながら画像ファイルを再生する

ディスクに音楽ファイルと画像ファイルが両方含まれているときは、音楽ファイルを聞きながらスライドショーを表示することができます。

1. **ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます**

2. **[ディスクナビゲーター]を選択して、決定ボタンを押します**

3. **⇧⇩でフォルダーを設定して、決定ボタンを押します**

4. **⇧⇩で音楽ファイルを選択して、決定ボタンを押します**

音楽ファイルを再生します。

5. **⇧⇩で画像ファイルを選択して、決定ボタンを押します**

音楽ファイルを再生しながら、スライドショーで画像ファイルが表示されます。音楽ファイルと画像ファイルは、フォルダー内で繰り返し再生します。
この時、▶、II、I◀◀、▶▶I **ボタン**での操作は画像ファイルが対象となります。

メ モ

▼ ディスクナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。フォルダーをまたいで再生したいときは、ディスクをセットしたあとに ▶ **ボタン**を押して再生を開始してください。その際、II、◀◀、▶▶、I◀◀、▶▶I **ボタン**での操作は音楽ファイルが対象となります。

画像を拡大する(ズーム)

ズーム

ズームボタンを押します

- ズームエリア(拡大する場所)が表示されます（JPEG を除く）。⇧⇩⇦⇨ **ボタン**でズームエリアを移動することができます。
- 押すたびに、２倍 →４倍 → 通常と切り換わります。

メ モ

▼ **JPEG では** ▶ **ボタン**を押してスライドショーに戻すこともできます。

画像を回転 / 反転させる

⇧⇩⇦⇨ を押します

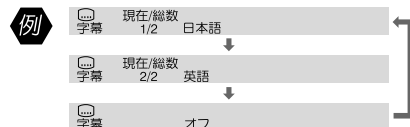
⇨ ー 押すたびに画像が時計回りに 90˚ 回転します。
⇦ ー 押すたびに画像が反時計回りに 90˚ 回転します。
⇧ ー 画像の上下が反転します。
⇩ ー 画像の左右が反転します。

メ モ

▼ 通常のスライドショーに戻すには ► **ボタン**を押します。

字幕を切り換える

再生中に字幕ボタンを押します

•押すたびに字幕が切り換わります。

字幕が収録されていないときは［− / −］が表示されます。

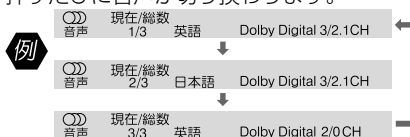
メ モ

▼ ここで切り換えた字幕の設定は、リジューム機能（10ページ）を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定（52ページ）の設定に戻ります。

▼ DVD-Video によっては**字幕ボタン**で字幕を切り換えられない場合があります。DVDのメニュー画面で切り換えてください。

音声を切り換える

再生中に音声ボタンを押します

押すたびに音声が切り換わります。

• Video CD CD(R/RW) では、ステレオ、1/L（左）、2/R（右）が切り換わります。

• 二カ国語で記録された VR DVD-R/RW では、主、副、主／副音声が切り換わります。

メ モ

- ▼ DVD-Videoによっては**音声ボタン**で音声を切り換えられない場合があります。DVDのメニュー画面で切り換えてください。
- ▼ ディスクによっては音声を切り換えたときに一瞬静止画になることがあります。
- ▼ ここで切り換えた音声の設定は、リジューム機能（10ページ）を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定（51ページ）の設定に戻ります。
- ▼ カラオケソフトなどで音声を伴奏だけにするには、ディスクのジャケットなどに書かれている音声の種類に合わせて上記の操作をしてください。

アングルを切り換える

複数のアングルが収録されているDVD-Videoでは、再生中にアングルを切り換えることができます**(マルチアングル)**。詳しくは74、77ページをご覧ください。

アングルボタンを押します

•現在のアングルと、収録されているアングルの総数が表示されます。
押すたびにアングルが切り換わります。

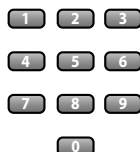
メ モ

- ▼ 複数のアングルが収録されている場所にくると、マークが画面に表示されます。マークを表示させたくないときは、初期設定の**[アングルマーク表示]**を**[オフ]**にします。(53ページ)
- ▼ マークが表示されてもアングルを切り換えることができないディスクもあります。
- ▼ メニュー画面でアングルを切り換えることができるディスクもあります。

メニュー画面から再生する(PBC 再生)

Video CD では、メニュー画面に従って再生することをPBC(プレイバックコントロール)再生といいます。ディスクによって操作方法が異なります。ディスクに添付されている操作ガイドもあわせてご覧ください。

ビデオCDカラオケ

1	Stand up!	Rock
2	Hello!	Pops
3	Over the Mountain	R&B
4	Help Me!	Jazz
5	It's fine today	Pops

1. PBC再生対応ディスクを入れ、► ボタンを押して再生します

メニュー画面が表示されます。

2. 数字(0〜9)ボタンで再生したいトラックを選択して、決定ボタンを押します

再生を開始します。再生中に**戻るボタン**を押すとメニュー画面に戻ります。

メニュー画面のページを進める、または戻すには

メニュー画面を表示中に ►►| または |◄◄ **ボタン**を押します。

メニュー画面のページを出さずに再生するには(PBC再生を解除して再生する)

停止中に►►|または|◄◄**ボタン**で選択します。また停止中に**数字(0〜9)ボタン**で選択して、**決定ボタン**を押すことでも解除して再生することができます。

ディスクの情報を見る

再生中に表示ボタンを押します

ディスクの経過時間や残量などを表示します。

例）

ディスクによっては、**表示ボタン**を押すたびに表示内容が切り換わります。**表示ボタン**を数回押すと、表示がオフになります。

メ モ

▼ Video CD のPBC再生中は一部の情報が表示されません。PBC再生を解除してください(上記参照)。

画質を調整してより見やすくする

画質調整画面は本機の入力がDVD（CD）入力のときのみ表示することができます。

項目によって設定画面が異なります。

例1

例2

ブライトネス　min　max　0

＊ **戻るボタン**を押すと、前の画面に戻ります。

1. **ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます**

2. **[画質調整]を選択して、決定ボタンを押します**

3. **⇧⇩⇦⇨と決定ボタンを使って、各項目を設定します**

シャープネス
画像の鮮明度を調整します。
•**ファイン、標準** (お買い上げ時の設定)、**ソフト**

ブライトネス
画面の明るさを調整します。
•**－20～＋20** (お買い上げ時の設定：**0**)

コントラスト
最も明るい部分と最も暗い部分との明るさの比率を調整します。
•**－16～＋16** (お買い上げ時の設定：**0**)

ガンマ
画像の暗い部分の見えかたを強調します。
•**大、中、小、オフ** (お買い上げ時の設定)

色あい
緑色と赤色のバランスを調整します。
•**緑9～赤9** (お買い上げ時の設定：**0**)

色の濃さ
色の濃さを調整します。色のりの多いアニメなどで効果があります。
•**－9～＋9** (お買い上げ時の設定：**0**)

4. **ホームメニューボタンを押して、設定画面を終了します**

メモ

▼ ディスクやテレビ（モニター）によっては効果がはっきりしないことがあります。

サラウンド再生を楽しむ

本機で最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためのステップは以下のとおりです。

音源と音声出力について

音源

CDやDVDに収録されている音声、ラジオの音声、または外部入力端子に接続した機器の音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

- **ステレオ音声**
  右と左の2チャンネルが収録された音声です。主に CD(R/RW) やラジオ放送などで使われています。右と左に同じ音声が収録されているときはモノラル音声といいます。
- **マルチチャンネル音声**
  ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式にはドルビーデジタル、DTS があります。主に DVD-Video などで使われています。

音声出力

スピーカーから出力する音声です。本機には 2 つの音声出力があります。

2.1ch (ステレオ音声出力)

フロントスピーカー(右/左の2チャンネル)とサブウーファー(低音専用なので0.1チャンネルと呼ばれています)から音声を出力します。センタースピーカーからは音声を出力しません。

5.1ch（サラウンド音声出力）

フロントスピーカー(右/左の2チャンネル)、センタースピーカー(1チャンネル)、およびワイヤレススピーカー(右/左の2チャンネル)の合計5チャンネルと、サブウーファー(0.1チャンネル)から音声を出力します※。音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センタースピーカーおよびワイヤレススピーカーの音声を作って出力できます。

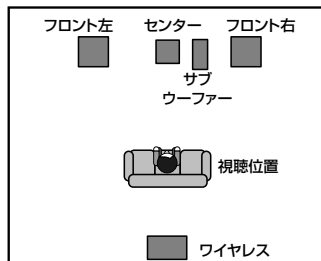
※音源によっては、ワイヤレススピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

ワイヤレススピーカーのいろいろな設置

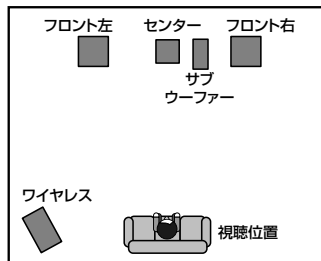
ワイヤレススピーカーはリスニングポジション（視聴位置）の真後ろ（中央)、左右の棚、置き台、または床に設置してください。また耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上に設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。スピーカーを移動したときは、サラウンドの自動設定（MCACC)（8ページ）を行ってください。

視聴位置の後ろに設置する

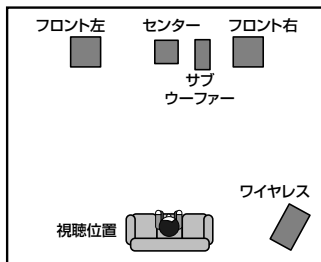
最もサラウンド効果の高い設置方法です。

- **ワイヤレスモード**：「WIDE」または「NORMAL」
- **リスニングモード**：「**サラウンド**」または「**アドバンスドサラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

視聴位置の左側に設置する

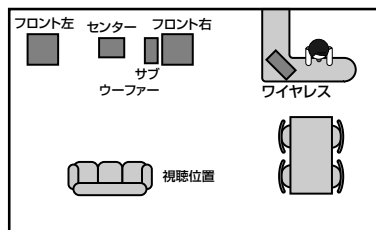
左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- **ワイヤレスモード**：「LEFT」
- **リスニングモード**：「**サラウンド**」または「**アドバンスドサラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

視聴位置の右側に設置する

左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- **ワイヤレスモード**：「RIGHT」
- **リスニングモード**：「**サラウンド**」または「**アドバンスドサラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

ダイニングなどで使う

ワイヤレススピーカーをダイニングなどに持ち運び､ステレオ音声をお楽しみいただくことができます。
このときはワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

- **ワイヤレスモード**：｢STEREO｣
- **リスニングモード**：選択することができません。

市販のサラウンドスピーカーを使う

本機は市販のサラウンドスピーカーを接続することもできます。
この場合はワイヤレスモードを「**OFF**」にしてください。リスニングモードは「**サラウンド**」または「**アドバンスド**」の中からお好きなモードが選べます。インピーダンスが4 Ω以上、最大入力が100 W（JEITA）以上のスピーカーをお使いください。また、専用のスピーカーケーブル（パイオニア部品番号：SDS1176（サラウンド左用青色）、SDS1177（サラウンド右用灰色））が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。

- 別売のワイヤレススピーカースタンド(型番CP‐ F500W)があります。詳しくはカタログをご覧ください。
- ワイヤレススピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果の不十分なときは「スピーカー出力レベルの調節」（57ページ）をご覧になりSR(サラウンド右)、SL(サラウンド左)チャンネルのレベルを調整してください。特にワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。

注 意

◆ 使用中に電波の状態によって、音が途切れたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約 10 mまで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 mを保証するものではありません。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを 1 m以上離してお使いください。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物（金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など）があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

ワイヤレスモードを切り換える

サラウンドスピーカーとして使う

1. **シフト+ワイヤレスボタンを押して、いずれかのモードを選択します**

- ノーマルサラウンド

NORMAL

- ワイドサラウンド(お買い上げ時の設定)

WIDE

- 左サイドサラウンド

LEFT

- 右サイドサラウンド

RIGHT

表示部に「((W))」インジケーターが点灯します。

ステレオスピーカーとして使う

1. **シフト+ワイヤレスボタンを押して、「STEREO」を選択します**

- ステレオ

STEREO

表示部に「((W))」インジケーターが点滅します。
ワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

市販のサラウンドスピーカーを使う

1. **シフト+ワイヤレスボタンを押して、「OFF」を選択します**

- オフ

OFF

表示部の「((W))」インジケーターが消灯します。
ワイヤレススピーカーからは音が出ません。

メ モ

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使うときは、サラウンド機能のいくつかが制限されることがあります。(80ページ)

サラウンドモードを選択する

- オート（AUTO）2.1ch 5.1ch

  音声を加工せず、収録されている音声を忠実に再現します。

  CD(R/RW)などのステレオ音声は「STEREO(ステレオ)」2.1chで出力します。

  DVD-Videoなどのマルチチャンネル音声は音声収録方式に応じて5.1ch で出力します。

- ドルビープロロジック (DOLBY PL) 5.1ch

  ステレオ音声を5.1ch で出力します(ただしサラウンドチャンネルの音声はモノラルになります)。特にドルビーサラウンドで収録されている音源に効果的です。

- ドルビープロロジック II ムービー (MOVIE) 5.1ch

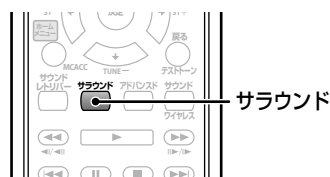
  ステレオ音声を5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは定位や移動感を重視し、ドルビーデジタルなどに迫る音場を再現します。特にドルビーサラウンドで収録されている映画ソフトに最適です。

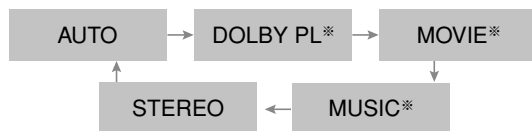
- ドルビープロロジック II ミュージック (MUSIC) 5.1ch

  ステレオ音声を5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは包囲感を重視しています。

  特にCD(R/RW)などの音楽に最適です。

- ステレオ（STEREO）2.1ch

  ステレオ音声をそのまま出力します。マルチチャンネル音声も 2.1chで出力します。

サラウンド **サラウンドボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。

※音源がステレオ音声のときのみ選ぶことができます。

メ モ

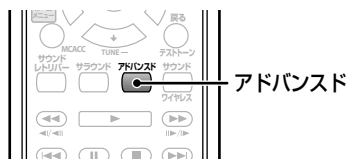
▼ ドルビープロロジックIIミュージックモードのときは、音響効果を加えることができます。(49 ページ)

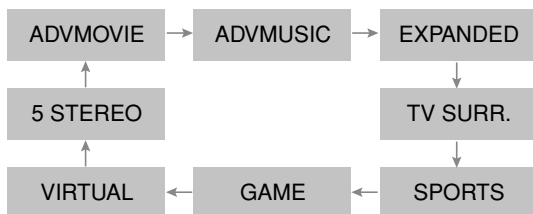
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、ステレオ（STEREO）モードになります。

▼ TUNER 入力時はステレオ（STEREO）モードになります。

▼ サラウンドモード表示中に ⇧⇩ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。

アドバンスドサラウンドモードを選択する

- ムービー (ADVMOVIE) **5.1ch**
  映画館のような臨場感や移動感を再現します。SF 映画やアクション映画に最適です。
- ミュージック (ADVMUSIC) **5.1ch**
  コンサートホールのような包囲感を再現します。ライブやミュージッククリップなどの DVD-Video 、または CD(R/RW) やテレビ/ラジオ放送の音楽に最適です。
- エキスパンデッド (EXPANDED) **5.1ch**
  ステレオ音声、マルチチャンネル音声ともに自然な広がり感のある音場になります。あらゆるソフトに効果的です。
- TV サラウンド (TV SURR.) **5.1ch**
  モノラル音声に広がり感を与えます。モノラル音声で収録された DVDディスクやテレビ/ラジオ放送に最適です。
- スポーツ (SPORTS) **5.1ch**
  スタジアムのような臨場感や躍動感を再現します。スポーツ中継に最適です。
- ゲーム (GAME) **5.1ch**
  ゲームの移動感、スピード感に迫力を加えます。シューティングゲームやレーシングゲームに最適です。
- バーチャルサラウンド (VIRTUAL) **2.1ch**
  フロントスピーカーとサブウーファーで広がり感を与えます。
- 5CH ステレオ (5 STEREO) **5.1ch**
  フロントスピーカーと同じ音声をワイヤレススピーカーからも出力します。部屋のどの場所にいてもステレオ感のある音場になります。音楽を BGM として楽しむときに効果的です。
- ヘッドホンサラウンド (PHONES SURROUND) **2 ch**
  ヘッドホンで聞くときに広がり感を与えます。

アドバンスドボタンを押します

押すたびに、以下のように切り換わります。

※表示部に「SURR.」インジケーターが点灯します。

メ モ

- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、ヘッドホンサラウンド（PHONES SURROUND）が選択できます。
- ▼ TUNER 入力時は、ステレオ（STEREO）モードになります。アドバンスドサラウンドモードは選択できません。
- ▼ アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**サラウンドボタン**を押してください。
- ▼ アドバンスドサラウンドモード表示中に⇧ ⇩ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。

Q&A

Q ： **ワイヤレススピーカーやセンタースピーカーから音が出ない！または、音が小さくて物足りない！**

→ **サラウンドボタン**、**アドバンスドボタン**を押して、各モードをお試しください。

→ **シフト＋設定ボタン**で、各スピーカーからのチャンネルレベルを調整することができます。（57 ページ）

→ ワイヤレスモードを「NORMAL」、「WIDE」、「LEFT」、「RIGHT」のいずれかに切り換えてください。

→ ワイヤレススピーカーの「TUNED」インジケーターは点灯していますか？消灯している場合は、トランスミッターの位置を移動させるか、チャンネルを切り換えてみてください。

圧縮音声を高音質化する

WMA、MP3、MPEG-4 AACなどの圧縮音声を再生するときに効果的です。圧縮音声は圧縮処理される際、人が感じ取りにくい部分の音声が削除されてしまいます。サウンドレトリバー機能では、削除されてしまった部分の音声をDSP処理によって補い、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します。

1. サウンド レトリバー

サウンドレトリバーボタンを押します

現在の設定内容が表示されます。

RTRV OFF

2. サウンド レトリバー

手順1で設定内容が表示されている間に、もう一度サウンドレトリバーボタンを押します

押すたびに、オンとオフが切り換わります。
表示部に「SOUND」インジケーターが点灯します。

メ モ

▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能を切り換えることができません。
▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能の効果は得られません。

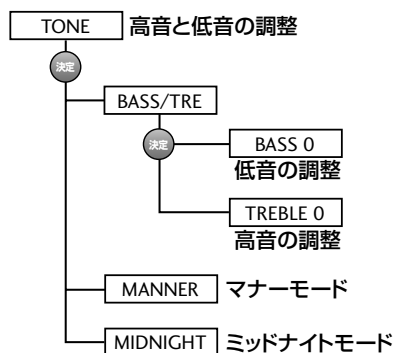
サウンドモードの調整を行う

1. サウンド

サウンドボタンを押します

2.

⇦ ⇨ で各設定項目を選択して、決定ボタンを押します

各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3.

⇧ ⇩ で、手順2で選択した項目を設定します

4. 決定

決定ボタンを押して設定モードを終了します

メ モ

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使うときは、サウンドモードの調整を行うことはできません。

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容
TONE **音質の設定**	● BASS/TRE: 低音と高音の音質をお好みで調整することができます。 BASS 0: **低音の調整** 再生する曲の低音（Bass）の音質を調整します。 ● 0 －３～＋３の間で調整できます。 TREBLE 0: **高音の調整** 再生する曲の高音（Treble）の音質を調整します。 ● 0 －３～＋３の間で調整できます。 ○ MANNER: 夜間に音楽や映画を楽しむとき、突然の爆発音などが大きく出ることがあり、隣室などへ音もれといった迷惑をかけることがあります。この機能は、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくするモードです。 ○ MIDNIGHT: 音量を小さくすると、サラウンドサウンドが弱くなったり、微小な音が聴こえにくくなることがあります。この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。夜間に音量を小さくして映画を楽しむ場合に適しています。

メ モ

▼ ミッドナイトとマナーモードをオフにしたいときは、BASS/TRE を選択します。

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容

BASSMODE

低音の強調

低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。音楽の低音再生に適したMUSICモードと、映画の重低音再生に適したCINEMAモードのいずれかを選ぶことができます。

● OFF:
通常の音質です。

○ MUSIC:
重低音を補正して、臨場感を増やした設定で、音楽ライブのソフトにお勧めです。

○ CINEMA:
MUSIC よりもさらに低音を強調した設定で、アクションシーンや戦闘、爆発音の多い映画ソフトにお勧めです。

メ モ

▼ 再生しているソースによっては、CINEMA や MUSICに設定しているとサブウーファーの音が歪んでしまうことがあります。このようなときはOFF に設定してください。
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、選択できません。
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、低音の強調効果は得られません。

DIALOGUE

セリフやボーカル音の調整

通常センタースピーカーから聞こえるセリフをTVから聞こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルを明瞭に再生します。2種類の中からお好きな効果を選ぶことができます。

● OFF:
通常の音質です。

○ MID:
ダイアログ効果で再生します。

○ MAX:
より強いダイアログ効果で再生します。

MCACC EQ

アコースティックEQ（周波数特性の補正）

サラウンドの自動設定（MCACC）（8ページ）で設定された周波数特性の補正をオン / オフします。オンにすることでチャンネル間の音色の違いを統一させ、再生音のつながりを良くし、音場バランスを改善します。

● EQ OFF:
ON または OFF のどちらかを選択します。

メ モ

▼ サラウンドの自動設定（MCACC）（8ページ）を行ったときは自動的に EQ ON になります。
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、選択できません。
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、周波数特性の補正は行われません。

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容

C WIDTH

センター幅の調整

ドルビープロロジックIIミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。
この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。

●3
0～7の間で調整できます。
（0はセンタースピーカーのみからの出力で7はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。）

メ モ

- ▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
- ▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、選択できません。

DIMEN.

ディメンションの調整

ドルビープロロジックIIミュージックモード時、リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで広がりのある音場を創り出すことができます。

●0
－3～+3の間で調整できます。
（－3はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、+3は前方の音場が強くなります。）

メ モ

- ▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
- ▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、選択できません。

PANORAMA

パノラマ調整

ドルビープロロジックIIミュージックモード時、前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。

●PNRM.OFF:
ONまたはOFFのどちらかを選択します。

メ モ

- ▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
- ▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。
- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、選択できません。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると、自動的に電源が切れます。音楽を聞きながら眠ったりするときに便利です。

1. スリープ

スリープボタンを押します

押すたびに、以下のように切り換わります。

- **スリープオン(SLP ON)**
  約1時間後に電源が切れます。

SLP ON

- **スリープオフ(SLP OFF)**
  スリープタイマーを解除します。

SLP OFF

2. 決定

決定ボタンを押します

スリープタイマーが設定されると、★☽ が点灯します。

メモ

▼ SLP ON を設定後に、**スリープボタン**を再度押すと、電源が切れるまでの時間を確認することができます。

SLP - - - - -

▼ 電源が切れるまでの時間を確認している間に、上記手順1～2を行うことで、スリープタイマー設定を再設定または解除することができます。

注意

◆ スリープ動作中は表示が暗くなります。

1. **ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます**

2. **[初期設定]を選択して、決定ボタンを押します**

ディスクの再生中に初期設定を選択することはできません。ディスクを停止してから再度選択してください。

3. **⇧ ⇩ ⇦ ⇨ と決定ボタンを使って、各項目を設定します**

●：お買い上げ時の設定

映像出力

設定項目	設定内容
テレビ画面 お使いのテレビに合わせてテレビ画面の縦横比を設定します。	●**4:3(レターボックス):** 従来サイズのテレビと接続して、16:9 の映像をレターボックス方式(画面の上下に黒い帯を入れて、4:3の画面で 16:9 の映像を再現する方式)で見たいとき。 ○**4:3（パンスキャン）：**従来サイズのテレビと接続して、16:9の映像をパンスキャン方式(16:9 の映像の左右をカットして 4:3 の画面全体に映し出す方式)で見たいとき。**この設定はディスクが対応していないとできません。** ○**16:9：**ワイド（16:9）テレビと接続したとき。

お使いのテレビが従来サイズ(4:3)のとき		お使いのテレビがワイドテレビ(16:9)のとき	
本機の設定	映像の見えかた	本機の設定	映像の見えかた
4:3 (レターボックス)	16:9の映像　4:3の映像	16:9(ワイド)	16:9の映像　4:3の映像
4:3 (パンスキャン)	16:9の映像　4:3の映像		

＊画面の比率（アスペクト比）の切り換えができないディスクもあります。ディスクのジャケットなどで確認してください。

設定項目	設定内容
D2 映像出力 D1/D2映像端子に出力される映像をインターレースかプログレッシブに設定します。	○**プログレッシブ**：プログレッシブ映像信号に対応しているテレビまたはプロジェクターのとき。 ●**インターレース**：プログレッシブ映像信号に対応していないテレビまたはプロジェクターのとき。 ➡ [**プログレッシブ**]を選択して決定を押すと確認の画面が出ます。変更を行う場合は、**決定ボタン**を押してください。変更しない場合は、その他のボタンを押してください。 ▼ [**プログレッシブ**]と[**インターレース**]を切り換えるとき、映像が乱れることがあります。 ▼ [**プログレッシブ**]と[**インターレース**]を再生中に切り換えることはできません。ディスクを停止させてから切り換えてください。

●：お買い上げ時の設定

言語

設定項目	設定内容
音声言語 DVD ビデオの音声言語を変更します。	●**日本語**：日本語にするとき。 ○**英語**：英語にするとき。 ○**その他の言語**：136 言語の中から任意の音声を選びます。（55 ページ） ▼ ディスクによっては、ディスクで決められている音声の言語になることがあります。 ▼ ディスクによっては、音声の言語をディスクメニューで選択するようになっています。このときは、リモコンの**メニューボタン**を押してディスクメニューを表示させてから音声の言語を選択してください。
字幕言語 DVD ビデオの字幕言語を変更します。	●**日本語**：日本語にするとき。 ○**英語**：英語にするとき。 ○**その他の言語**：136 言語の中から任意の字幕を選びます。（55 ページ） ▼ ディスクによっては、ディスクで決められている言語で字幕が表示されることがあります。 ▼ ディスクによっては、字幕の言語をディスクメニューを使用して選択するようになっています。このときは、リモコンの**メニューボタン**を押してディスクメニューを表示させてから字幕の言語を選択してください。

設定項目	設定内容
DVD メニュー言語 DVDビデオのディスクメニューに表示する言語を変更します。	●**字幕言語に連動：[字幕言語]**で選択されている言語でメニュー画面を表示するとき。 ○**日本語：**日本語でメニュー画面を表示するとき。 ○**英語：**英語でメニュー画面を表示するとき。 ○**その他の言語：**136 言語の中から任意の言語を選びます。（55 ページ）
字幕表示 DVD ビデオの字幕を表示する / しないを設定します。	●**オン：**字幕を表示するとき。 ○**オフ：**字幕を表示しないとき。ただし、DVD ビデオの中には強制的に字幕を表示するディスクもあります。

●：お買い上げ時の設定

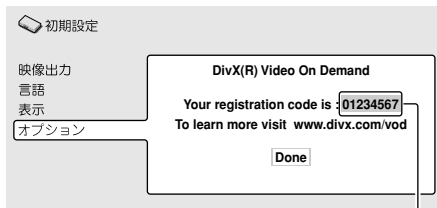
表示

設定項目	設定内容
画面表示言語 テレビ画面の操作表示言語を設定します。	●**日本語：**操作表示言語を日本語にするとき。 ○ **English：**操作表示言語を英語にするとき。
アングルマーク表示 アングルマーク（ ）を表示する / しないを設定します。	●**オン：**テレビ画面に マークを表示するとき。 ○**オフ：**テレビ画面に マークを表示しないとき。

オプション

設定項目	設定内容
視聴制限 暴力シーンなどを含む DVD ビデオには、視聴制限のレベルを設けたものがあります（ディスクのジャケットなどの表示で確認できます）。本機のレベルを小さくしておくと、これらのディスクの視聴を制限することができます。	**◆暗証番号** **◆レベル変更** **◆国 / 地区コード** **➡ 暗証番号を登録するには** ①**[暗証番号]を選んで決定ボタンを押します** ②**数字（0～9）ボタンで４桁の暗証番号を入力して、決定ボタンを押します**

設定項目	設定内容
	▼ 暗証番号はメモしておくことをお勧めします。 ▼ 暗証番号を忘れてしまったときは、本機を初期化して、再度設定してください（89 ページ）。 ▼ ディスクによっては、視聴制限されたシーンのみをとばして再生するものもあります。詳しくはディスクに添付されている操作方法をご覧ください。 ▼ 視聴制限されたディスクを再生すると、暗証番号の入力を求める画面が表示されていることがあります。このときは、暗証番号を入力しないと再生することができません。
	➡ 暗証番号を変更するには ①**[暗証番号]を選んで決定ボタンを押します** ②**数字（0～9）ボタンですでに登録してある暗証番号を入力して、決定ボタンを押します** ③**数字（0～9）ボタンで新しい暗証番号を入力して、決定ボタンを押します**
	➡ レベルを変更するには ①**[レベル変更]を選んで決定ボタンを押します** ②**数字（0～9）ボタンで４桁の暗証番号を入力して、決定ボタンを押します** ③**レベルを選んでから、決定ボタンを押します**
	➡ 国 / 地区コードを変更するには 国 / 地区コード表（56 ページ）を見ながら操作してください。 ①**[国コード]を選んで決定ボタンを押します** ②**数字（0～9）ボタンですでに登録してある暗証番号を入力して、決定ボタンを押します** ③**数字（0～9）ボタンで[コード]、または ⇧⇩ ボタンで[国 / 地区コード表]を入力してから、決定ボタンを押します**
	▼ 国/地区コードを変更したときは、ディスクを一度取り出してください。再度ディスクをセットすると変更が有効になります。

設定項目	設定内容
DivX VOD DivX VOD フォーマットで記録されたファイルを本機で再生する場合、そのDivX VOD ファイルの配信先に対して本機の登録コードが必要な場合があります。その場合は、Displayで確認した登録コードをお使いください。	◆Display ➡DivX VOD 登録コードを確認するには ①[DivX（R）VOD]を選択し、⇨ボタンを押します。 ②[Display]を選択して決定ボタンを押します。

メ モ

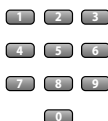
▼ DivX VOD フォーマットで記録されたファイルはDRM コピープロテクション（著作権保護）がかかっており、登録されたプレーヤーでのみ再生することができます。

▼ 本機の登録コードが承認されていないDivX VOD ファイルを再生すると「Authorization Error」と表示され再生することができません。

注 意

◆ DivX VOD ファイルには視聴回数が設定されているものがあります。そのようなDivX VOD ファイルを本機で再生すると残りの視聴回数がOSD画面に表示されます。残りの視聴回数が0のファイルを本機が読み込むと「Rental Expired」と表示され再生することができません。また、視聴回数の設定されていないDivX VOD ファイルについては、OSD画面には残りの視聴回数は表示されず、何度でも再生することができます。

言語の設定でその他の言語を選んだとき

言語コード表（56ページ）にある136言語の中から選ぶことができます。DVDに収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。

1. [その他の言語]を選択して、決定ボタンを押します

2. ⇧⇩⇦⇨または数字ボタンを使って[言語表]または[コード]を選んでから、決定ボタンを押します

言語によってはコード番号しか表示されないものもあります。詳しくは言語コード表（56ページ）をご覧ください。

言語コード表

言語名(言語コード), **入力コード**

Japanese (ja), **1001**
English (en), **0514**
French (fr), **0618**
German (de), **0405**
Italian (it), **0920**
Spanish (es), **0519**
Chinese (zh), **2608**
Dutch (nl), **1412**
Portuguese (pt), **1620**
Swedish (sv), **1922**
Russian (ru), **1821**
Korean (ko), **1115**
Greek (el), **0512**
Afar (aa), **0101**
Abkhazian (ab), **0102**
Afrikaans (af), **0106**
Amharic (am), **0113**
Arabic (ar), **0118**
Assamese (as), **0119**
Aymara (ay), **0125**
Azerbaijani (az), **0126**
Bashkir (ba), **0201**
Byelorussian (be), **0205**
Bulgarian (bg), **0207**
Bihari (bh), **0208**
Bislama (bi), **0209**
Bengali (bn), **0214**
Tibetan (bo), **0215**
Breton (br), **0218**
Catalan (ca), **0301**
Corsican (co), **0315**
Czech (cs), **0319**
Welsh (cy), **0325**
Danish (da), **0401**
Bhutani (dz), **0426**
Esperanto (eo), **0515**
Estonian (et), **0520**
Basque (eu), **0521**
Persian (fa), **0601**
Finnish (fi), **0609**
Fiji (fj), **0610**
Faroese (fo), **0615**
Frisian (fy), **0625**
Irish (ga), **0701**
Scots-Gaelic (gd), **0704**
Galician (gl), **0712**
Guarani (gn), **0714**
Gujarati (gu), **0721**
Hausa (ha), **0801**
Hindi (hi), **0809**
Croatian (hr), **0818**
Hungarian (hu), **0821**
Armenian (hy), **0825**
Interlingua (ia), **0901**
Interlingue (ie), **0905**
Inupiak (ik), **0911**
Indonesian (in), **0914**
Icelandic (is), **0919**
Hebrew (iw), **0923**
Yiddish (ji), **1009**
Javanese (jw), **1023**
Georgian (ka), **1101**
Kazakh (kk), **1111**
Greenlandic (kl), **1112**
Cambodian (km), **1113**
Kannada (kn), **1114**
Kashmiri (ks), **1119**
Kurdish (ku), **1121**
Kirghiz (ky), **1125**
Latin (la), **1201**
Lingala (ln), **1214**
Laothian (lo), **1215**
Lithuanian (lt), **1220**
Latvian (lv), **1222**
Malagasy (mg), **1307**
Maori (mi), **1309**
Macedonian (mk), **1311**
Malayalam (ml), **1312**
Mongolian (mn), **1314**
Moldavian (mo), **1315**
Marathi (mr), **1318**
Malay (ms), **1319**
Maltese (mt), **1320**
Burmese (my), **1325**
Nauru (na), **1401**
Nepali (ne), **1405**
Norwegian (no), **1415**
Occitan (oc), **1503**
Oromo (om), **1513**
Oriya (or), **1518**
Panjabi (pa), **1601**
Polish (pl), **1612**
Pashto, Pushto (ps), **1619**
Quechua (qu), **1721**
Rhaeto-Romance (rm), **1813**
Kirundi (rn), **1814**
Romanian (ro), **1815**
Kinyarwanda (rw), **1823**
Sanskrit (sa), **1901**
Sindhi (sd), **1904**
Sangho (sg), **1907**
Serbo-Croatian (sh), **1908**
Sinhalese (si), **1909**
Slovak (sk), **1911**
Slovenian (sl), **1912**
Samoan (sm), **1913**
Shona (sn), **1914**
Somali (so), **1915**
Albanian (sq), **1917**
Serbian (sr), **1918**
Siswati (ss), **1919**
Sesotho (st), **1920**
Sundanese (su), **1921**
Swahili (sw), **1923**
Tamil (ta), **2001**
Telugu (te), **2005**
Tajik (tg), **2007**
Thai (th), **2008**
Tigrinya (ti), **2009**
Turkmen (tk), **2011**
Tagalog (tl), **2012**
Setswana (tn), **2014**
Tonga (to), **2015**
Turkish (tr), **2018**
Tsonga (ts), **2019**
Tatar (tt), **2020**
Twi (tw), **2023**
Ukrainian (uk), **2111**
Urdu (ur), **2118**
Uzbek (uz), **2126**
Vietnamese (vi), **2209**
Volapük (vo), **2215**
Wolof (wo), **2315**
Xhosa (xh), **2408**
Yoruba (yo), **2515**
Zulu (zu), **2621**

国／地区コード表

国名／地区名 , **入力コード , 国／地区コード**

アメリカ, **2119, us**
アルゼンチン, **0118, ar**
イギリス, **0702, gb**
イタリア, **0920, it**
インド, **0914, in**
インドネシア, **0904, id**
オーストラリア, **0121, au**
オーストリア, **0120, at**
オランダ, **1412, nl**
カナダ, **0301, ca**
韓国, **1118, kr**
シンガポール, **1907, sg**
スイス, **0308, ch**
スウェーデン, **1905, se**
スペイン, **0519, es**
タイ, **2008, th**
台湾, **2023, tw**
中国, **0314, cn**
チリ, **0312, cl**
デンマーク, **0411, dk**
ドイツ, **0405, de**
日本, **1016, jp**
ニュージーランド, **1426, nz**
ノルウェー, **1415, no**
パキスタン, **1611, pk**
フィリピン, **1608, ph**
フィンランド, **0609, fi**
ブラジル, **0218, br**
フランス, **0618, fr**
ベルギー, **0205, be**
ポルトガル, **1620, pt**
香港, **0811, hk**
マレーシア, **1325, my**
メキシコ, **1324, mx**
ロシア, **1821, ru**

スピーカー出力レベルの調整

・サラウンドの自動設定（MCACC）を行った場合、「スピーカー出力レベルの調整」は自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。

再生している音声で調整する

ラジオや CD、DVD などの音声を聞きながら、各スピーカーごとにお好みの音の大きさに調整する方法です。

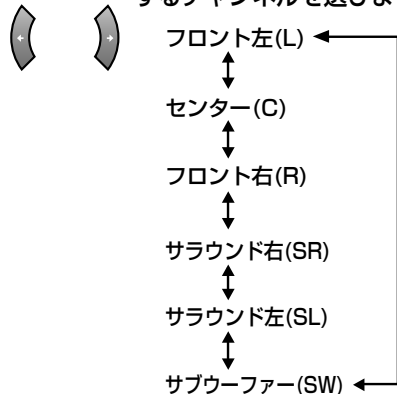
1. サラウンド または アドバンスド

音声を再生し、サラウンドボタンまたはアドバンスドボタンを押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選択します (43～45ページ)

2. シフト ＋ 設定

シフト+設定ボタンを押します

3. ⇦ ⇨で、“CH LEVEL”を選択して、決定ボタンを押します

4. ⇦ ⇨で、出力レベルを調整するチャンネルを選びます

5. ⇧ ⇩で、各チャンネルの出力レベルを調整します

チャンネルレベルは、± 10 dB の範囲で調整できます。

6. 手順４から５を繰り返して各スピーカーのレベルを調整します

7. 決定ボタンを押します

メ モ

▼ ステレオ音声出力（2.1ch）のときは、センターおよびサラウンドチャンネルの出力レベルを調整することはできません。

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときやヘッドホンを挿入しているときは、出力レベルを調整することはできません。

注 意

◆ この設定は、ヘッドホン出力には反映されません。

テストトーンで調整する

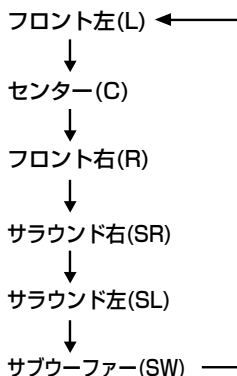
ザーというテストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量バランスを調整する方法です。

1. サラウンド または アドバンスド

サラウンドボタンまたはアドバンスドボタンを押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選択します(43～45ページ)

2. シフト + テストトーン

シフト+テストトーンボタンを押します

以下の順番で、各チャンネルのテストトーン(ザーという音)が、自動的に切り換わって出力されます。

3. **お好みの音量に調整します**

4.

⇧⇩で、テストトーンが出力されているスピーカーの出力レベルを調整します

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10 dBの範囲で調整できます。

5.

すべてのスピーカーの調整が終了したら、決定ボタンを押します

テストトーンが止まり、出力レベル調整を終了します。

メモ

▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
▼ サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
▼ オートモードでテストトーンを出力したときは、再生しているソースによらず、5.1ch用の設定値が表示され、調整することができます。
▼ ステレオ音声出力（2.1ch）のときは、センターおよびワイヤレススピーカーからはテストトーンが出力されません。
▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときやヘッドホンを挿入しているときは、テストトーンを出力することはできません。

注 意

◆ この設定は、ヘッドホン出力には反映されません。

スピーカー距離の設定

・サラウンドの自動設定（MCACC）を行った場合、「スピーカー距離の設定」は自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差に生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

1.

＋
設定

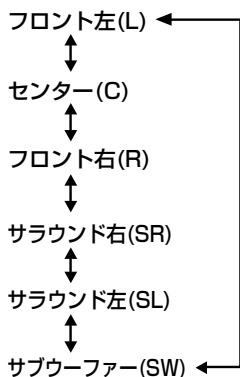
シフト+設定ボタンを押します

2. ⇦ ⇨で、“DISTANCE” を選んで決定ボタンを押します

決定

DISTANCE

3.

⇦ ⇨で、距離を設定するチャンネルを選びます

4.

⇧ ⇩で、各スピーカーまでの距離を設定します

0.3 m～9.0 mの間を0.3 m間隔で設定できます。
お買い上げ時の設定は 3.0 m です。

5. 手順３から４を繰り返して各スピーカーまでの距離を設定します

6. 決定

決定ボタンを押します

9

サラウンドの設定

ダイナミックレンジコントロールを設定する

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

1.

＋
シフト＋設定ボタンを押します

2.

⇦ ⇨ で、“DRC” を選んで決定ボタンを押します

DRC

3.

⇧ ⇩ で設定を選んで決定ボタンを押します

- DRC OFF
  ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
- DRC MID
  ダイナミックレンジを少し圧縮します。
- DRC HIGH
  ダイナミックレンジを最も圧縮します。

メ モ

▼ 小さい音量で楽しむ場合は、DRC HIGH に設定することをお勧めします。
▼ ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声やDTS 音声にのみ効果があります。
▼ 再生しているディスクよっては、効果の少ないものもあります。

CD タイプの設定

再生する CD の種類を選択することで、本機の設定を最適な環境にします。
本機でDTS-CDを再生しない場合は、この設定は必要ありません。

1.

⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2. シフト＋設定

シフト+設定ボタンを押します

3.

⇦ ⇨ で“CD TYPE”を選んで決定ボタンを押します

CD TYPE

4.

⇧ ⇩ で設定を選んで決定ボタンを押します

● NORMAL
DTS-CD を再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常のCDの再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。

● DTS-CD
DTS-CD を再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常の CD を再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

デュアルモノの設定

本機の LINE1 デジタル光入力端子と接続したDVDレコーダーなどの機器で、録画した二カ国語放送を再生(ドルビーデジタル 1+1デュアルモノ音声で) しているときや、地上/BS/CS デジタルチューナーなどで、二カ国語番組を視聴(MPEG-2 AAC 1+1 デュアルモノ音声で)しているときに、音声選択を行います。

音声ボタンを押します

押すたびに、以下のように切り換わります

● CH1 MONO
チャンネル 1 のみを再生します。

● CH2 MONO
チャンネル 2 のみを再生します。

● CH1/CH2
チャンネル 1、2 の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生します。

メ モ

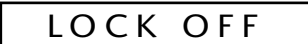
▼ MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTSの1+1 デュアルモノ音声のときのみ音声を切り換えることができます。
▼ 二カ国語で記録された VR DVD-R/RW を本機で再生しているときも音声を切り換えることができます。（35 ページ）

Q&A

Q: デュアルモノ音声(二カ国語音声)を再生しているのに音声が切り換わらない!

→ 再生側の機器のデジタル出力設定が、リニア PCM に設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルや MPEG-2 AAC などで出力してください。
→ アナログ接続の時は音声を切り換えることはできません。再生側の機器とデジタル接続してください。（64 ページ）

キーロック機能を使う

この機能をオンにすると、本体の操作ボタンがすべて使用できなくなります。
小さなお子さまのいる家庭でのいたずら防止に便利な機能です。
お買い上げ時は、キーロック機能はオフに設定されています。

1. 電源 ⏻

⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2. シフト + 設定

シフト+設定ボタンを押します

3.

⇦ ⇨で “KEYLOCK”を選択して、決定ボタンを押します

KEYLOCK

4.

⇧ ⇩で、キーロック機能のオン / オフを選びます

キーロック機能のオンのとき

LOCK ON

キーロック機能のオフのとき

LOCK OFF

5. 決定

決定ボタンを押します

表示全体の明るさをかえる

部屋の明るさに応じて、表示の明るさを暗くすることができます。ディマー機能といいます。
お買い上げ時は、通常の明るさに設定されています。

1.

+

シフト+設定ボタンを押します

2.

⇦ ⇨で “DIMMER”を選択して、決定ボタンを押します

DIMMER

3.

⇧ ⇩でお好きな明るさを選択して、決定ボタンを押します

暗い設定

DARK

通常の明るさの設定

LIGHT

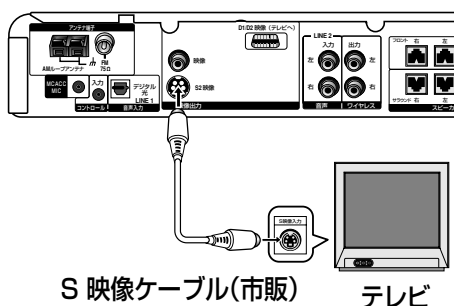
メ モ

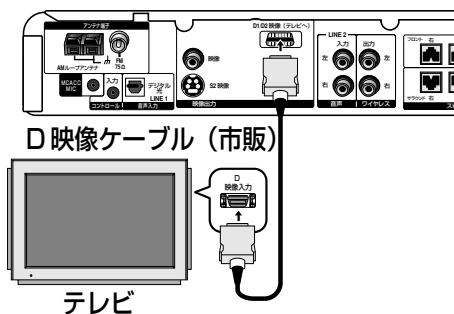
▼ スリープタイマーが設定されているときは、ディマー機能の設定によらず､表示は暗くなります。

より鮮明な映像でテレビを見るための接続

別添の「システムセットアップガイド」では、付属の映像ケーブルを使用した接続方法でしたが、以下の接続を行うと、より鮮明な画像でDVDを楽しむことができます。

S 映像入力端子付きテレビの場合

市販のS映像ケーブルで接続します。付属の映像ケーブルを使った接続より高品位な映像です。

D 映像入力端子対応のテレビの場合

市販のD映像ケーブルで接続します。本機の高品位な映像品質を楽しむときに最も適した接続です。本機の**D1/D2 映像出力端子**は、接続するテレビのD1、D2、D3、またはD4のいずれの入力端子にも接続することができます。

メモ

▼ プログレッシブ入力に対応していないテレビとD映像接続しているときは、映像の出力方式を[**インターレース**]に設定してください。[**プログレッシブ**]に設定してしまうと映像が乱れる場合があります。（52 ページ）

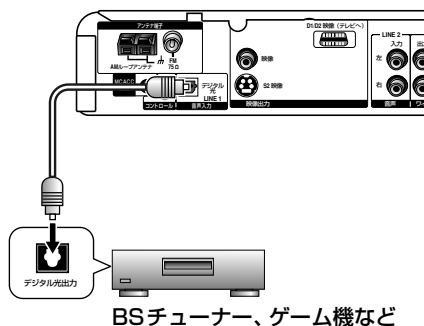
BS チューナーやゲーム機などの音声を本機で聞くときの接続

本機には LINE1 デジタル光入力端子があります。BS チューナー、CS チューナー、ゲーム機などの機器と接続し、映画やゲームなどを5.1 ch サラウンドで楽しむことができます。

接続のしかた

市販の光ケーブルで、本機の**LINE1デジタル光入力端子**と接続する機器のデジタル光出力端子とを接続します。

● 詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

BSチューナー、ゲーム機など

本機で聞くには

LINE ボタンを押して、LINE1 にします

押すたびに、LINE1 とLINE2の入力が切り換わります。

メ モ

▼ デュアルモノ音声（二カ国語音声番組など）を切り換えることができます。（61ページ）

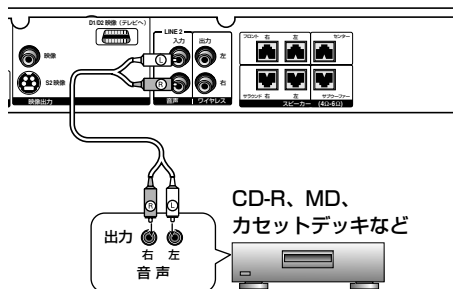
▼ 接続した機器にデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ、ビデオやカセットデッキなどを本機で聞くための接続

テレビ、CD-R、MD、カセットデッキなどのアナログ出力端子のある機器を、本機に接続することができます。

接続のしかた

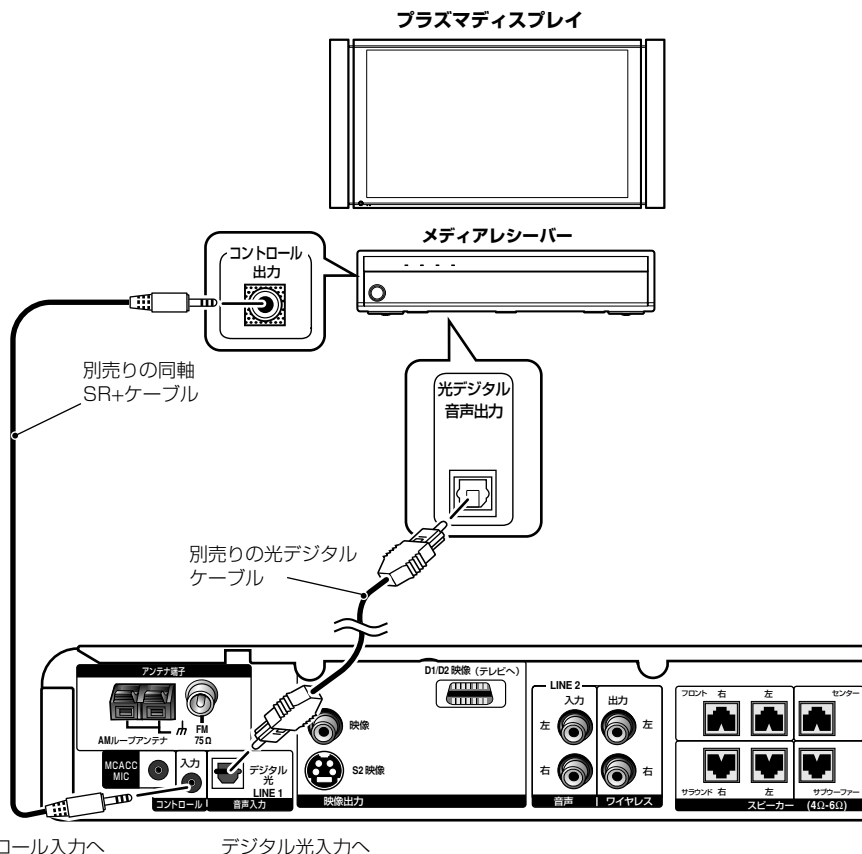
本機の **LINE2 入力端子**と接続機器の出力端子とを、市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

● 詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

本機で聞くには

LINE ボタンを押して、LINE2 にします

押すたびに、LINE1 とLINE2の入力が切り換わります。

パイオニアプラズマディスプレイと連動させるための接続

このシステム動作を実現するためには専用の SR +ケーブル（パイオニア部品番号：ADE7095）が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。市販の４極ミニジャック（両端とも）付コードでも使用できます。
SR+に対応したプラズマディスプレイ（2003年以降に発売されたモデル）をSR+ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。本機とプラズマディスプレイの入力を連動させて切り換えることができます。本機とプラズマディスプレイをシステム動作させるには、下記の接続および設定（66ページ）が必要になります。

注 意

◆ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときは、リモコンで本機の操作ができません。
◆ SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。

接続したプラズマディスプレイとの連動設定

SR＋ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。「音量連動モードの設定」と「入力連動モードの設定」を設定します。本機とプラズマディスプレイをシステム連動させるには、接続（65ページ）、以下の設定、「連動モード実行」（68ページ）が必要となります。

メ モ

▼ 以下の設定をする前に本機とプラズマディスプレイをSR＋ケーブルで接続して（65ページ）、本機とプラズマディスプレイの電源を入れてください。

音量連動モードの設定

連動モードを実行したとき（68ページ）にプラズマディスプレイの音量を下げるかどうか設定します。
「ON」に設定すると連動モードを実行したとき瞬時にプラズマディスプレイの音量が0になり本機の音に切り換わります。

1.

シフト＋SR+ボタンを押します

2.

⇦ ⇨で"SETUP"を選んで決定ボタンを押します

SETUP

3.

⇦ ⇨で、音量連動モードの設定モードを選びます

現在の設定内容が表示されます。

VOL.C OFF

4. **⇧ ⇩で、ONまたはOFFを選びます**

押すたびに以下のように切り換わります。

VOL.C ON ←→ VOL.C OFF

5.

決定ボタンを押して設定モードを終了します

メ モ

▼ 再度プラズマディスプレイの音を出したいときはプラズマディスプレイの音量を上げてください。

入力連動モードの設定

本機の音声とプラズマディスプレイの映像入力を自動で選択させるための設定です。本機の音声入力（DVD、USB、LINE1、LINE2）とプラズマディスプレイの映像入力（ビデオ 1、2、3、など）をこの設定で合わせると、本機の入力を切り換えたときに、プラズマディスプレイの映像入力も自動で切り換わります。

1.

シフト+ SR+ ボタンを押します

2.

⇦ ⇨で“SETUP”を選んで決定ボタンを押します

3.
⇦ ⇨で、連動させる本機の入力を選びます

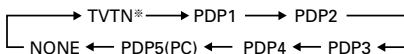
各入力の現在の設定内容が表示されます。

DVD　PDP3

（PDP3はプラズマディスプレイの映像入力３（ビデオ３）を表しています）

4.
⇧ ⇩で、接続に合わせてプラズマディスプレイの映像入力を切り換えます

押すたびにプラズマディスプレイの入力が以下のように切り換わります。

→ TVTN※ → PDP1 → PDP2 → PDP3 → PDP4 → PDP5(PC) → NONE →

NONE のときは入力切換は連動しません。
※プラズマディスプレイのＴＶチューナー（アナログ放送）を表しています。

たとえば、本機の映像出力端子をプラズマディスプレイのビデオ入力 1 端子に接続したときは、「DVD NONE」を「DVD PDP1」に切り換えます。
工場出荷時の本機の入力とプラズマディスプレイの入力はすべてNONEに設定されています。
メディアレシーバーの光デジタル音声出力を本機のLINE1 デジタル光入力端子に接続したとき（65ページ）にプラズマディスプレイ（PDP）のBS デジタル放送を選ぶときは、本機の入力をLINE1 に切り換えてからPDPの入力を切り換えてください。

5. 決定 **決定ボタンを押して設定モードを終了します**

メ モ

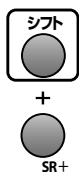
▼ TUNER入力に対しては、入力連動モードを設定することはできません。

連動モード実行

本機とプラズマディスプレイがSR+ケーブルで接続されていることを確認してください。

1. **プラズマディスプレイの電源を入れます**

2. 電源 **本機の電源を入れます**

3. シフト + SR+ **シフト+SR+ボタンを押します**

4. **⇦⇨で"SR+ON"を選択して、決定ボタンを押します**

連動モードが実行され、「SR+ON」を点滅表示します。

SR+ ON

5. **システム動作を確認します**

本機の入力を切り換えるとプラズマディスプレイの入力が切り換わります。

注 意

◆ SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイに向けてください。

メ モ

▼ プラズマディスプレイの電源がOFFのときまたは正しく接続されていないときは連動モードは働きません。

▼ 入力連動モードを設定していない入力のときは、プラズマディスプレイの画面は切り換わりません。

▼ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

連動モード解除

本機の電源がオンで、連動モードが実行されていることを確認してください。

1. シフト + SR+ **シフト+SR+ボタンを押します**

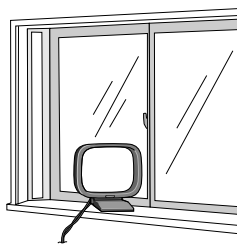
2. **⇦⇨で"SR+OFF"を選択して、決定ボタンを押します**

連動モードが解除され、「SR+OFF」を点滅表示します。

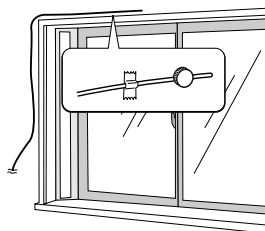
SR+ OFF

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ：

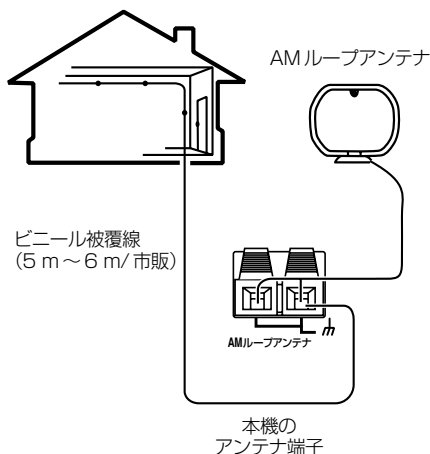
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

- できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

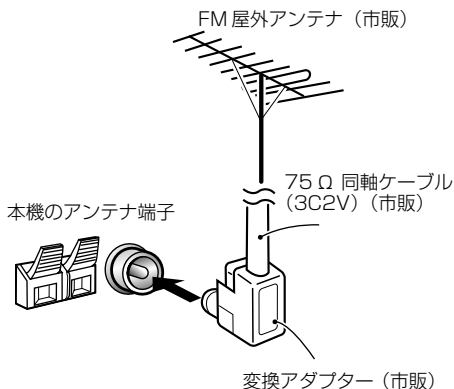
FM 簡易アンテナ：

- 付属のFM簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。

- 付属のFM簡易アンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。

付属アンテナでよく聞こえないとき

AM 外部アンテナをつなぐ

- AM 外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を下図のように接続してください。

FM 屋外アンテナをつなぐ

- 市販のFM屋外アンテナを接続するには、市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。

DVDの再生について

- 本機はDVDビデオフォーマット、またはVRモードで記録されたDVD-R/RW/R DL（2層ディスク）ディスクを再生することができます。ただし、ファイナライズしていないDVDビデオフォーマットのDVD-R/RWディスクを再生することはできません。
- 本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD+R/RW/R DL（2層ディスク）ディスクを再生することができます。ただし、ファイナライズしていないディスクは再生することができません。また、録画時の編集内容どおりには再生されないことがあります。
- DVDレコーダーで編集(シーン消去など)をした箇所を再生すると、そのつなぎ目で一瞬映像が止まります。これは故障ではありません。

※ 詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。また、DVDビデオフォーマット記録、およびVRモードでの記録については79ページもあわせてご覧ください。
VRモードで記録できるディスクはDVD-R/RWだけです。また、VRモードで記録されたDVD-R/RWを本機にセットすると「DVD VR」と表示されます。

- 本機はMP3/WMA/JPEG/MPEG-4 AAC/DivX®が記録されたDVD-R/RWを再生することができます。ただし、ディスクによっては「再生ができない」、「ノイズが出る」、または「音が歪む」などが起きることがあります。
- UDF Bridge（UDFブリッジ）フォーマットに準拠して記録したディスクを使用してください。
- マルチボーダー（77ページ）には対応していません。マルチボーダーディスクのときは、最初のボーダーのみ再生します。
- 1枚のディスクに最大299フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で648まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。

CD-R/CD-RWディスクの再生について

- 本機は音楽CDフォーマット、ビデオCDフォーマット、MP3/WMA/JPEG/MPEG-4 AAC/DivX®が記録されたCD-R/CD-RWディスクを再生することができます。ただし、ディスクによっては「再生できない」、「ノイズが出る」、または「音が歪む」などが起きることがあります。
- ファイナライズしていないCD-R/CD-RWディスクを再生することはできません。

※ 詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録したディスクを使用してください。
- マルチセッション（77ページ）には対応していません。マルチセッションディスクのときは、最初のセッションのみ再生します。
- 1枚のディスクに最大299フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で648まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。

DualDiscの再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入したり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷がついた面は再生すると不具合が出る場合があります。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために、再生できないことがあります。
- 「DualDisc」のDVDの面は再生可能です。ただし、DVDオーディオは再生できません。
- なお、「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

MP3の再生について

- MPEG1 オーディオレイヤー 3 のサンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、または48 kHz で記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは[**このフォーマットは再生できません**]と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート（VBR: Variable Bit Rate）には対応していません(再生できる場合、表示窓の時間表示が速くなったり、遅くなったりします)。
- 「.mp3」、または「.MP3」という拡張子がついたMP3ファイルのみ再生することができます。
- 音質的には、記録ビットレート 128 kbps を推奨します。

WMAの再生について

- 外装箱に印刷された、Windows Media®のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。
  WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。

- Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7, 7.1, Windows Media Player for Windows XP、またはWindows Media 9 Seriesを使用してエンコードすることができます。
- サンプリング周波数32 kHz、44.1 kHzまたは48 kHzで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは[**このフォーマットは再生できません**]と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート(VBR:Variable Bit Rate)、またはロスレスエンコーディング（loss-less encoding）には対応していません。
- DRMコピープロテクト（著作権保護）のかかったWMAファイルは再生できません。
- 「.wma」、または「.WMA」という拡張子がついたWMAファイルのみ再生することができます。
- WMAファイルは、米国Microsoft Corporationの認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

MPEG-4 AACの再生について

- AACとは「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。
- 本機では、iTunes®を使用してエンコードされた、拡張子が「.m4a」のAACファイルの再生に対応しています。故障の原因となりますので、「.m4a」以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。iTunesは米国および他の国々で登録されたApple Computer Inc.の商標です。
- AACファイルにエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。また、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzです。再生可能なAACファイルのビットレートは、16 kbps～320 kbpsです。可変ビットレートには対応していません。
- iTunes MUSIC STOREで購入された楽曲は、CD-R/RWやUSBメモリーに記録して再生することはできません。
- DRMコピープロテクト（著作権保護）のかかったMPEG-4 AACファイルは再生できません。

JPEGの再生について

- JPEGとは、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式(画像フォーマット)のひとつです。
- 本機では、フジカラーCD、コダックピクチャーCD、またはCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録されているJPEGファイルを再生することができます(記録方法などによって再生できないこともあります)。

- 総ピクセル数が3072×2048ピクセル以下のベースライン JPEG ファイル、および Exif 2.2 *4（78ページ）に準拠した JPEG ファイルの静止画再生に対応しています。
- 「.jpg」、または「.JPG」という拡張子がついた JPEG ファイルの静止画像を表示することができます。
- プログレッシブJPEGには対応していません。
- ファイルサイズが大きいファイルは画像の再生に時間がかかることがあります。

*4 *デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格(Exif)Ver2.2、JEIDA-49-1998 (社)電子情報技術産業協会 JEITA*

DivX の再生について

- 本機は DivX® Certified 製品です。
- DivXはDivX, Inc.が開発したメディア技術です。DivXのメディアファイルには圧縮された画像データが含まれます。また、DivX ファイルはメニューや複数の字幕、音声の切り替えといった高度な再生機能をつけることも可能です。
- 本機では DVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RW/CD-ROM ディスクに記録された DivX ファイルを再生することができます。
- DivX ファイルは DVD ビデオのようにファイルを「タイトル」と呼びます。DivX ファイルはタイトルのアルファベット順に再生されますので、ディスクに記録する際はタイトル名のつけ方にご注意ください。
- 標準の DivX® メディアファイル再生機能が付いたDivX® ビデオを再生（DivX® 6も含むすべてのバージョンに対応）することができます。
- 「.avi」または「.divx」という拡張子がついた DivX ファイルのみ再生することができます。「.avi」という拡張子はMPEG-4に準拠していますが、MPEG-4 の中でも DivX ファイルでない場合があります。その場合は本機では再生することができませんのでご注意ください。
- DivX、DivX Certified、および関連するロゴは DivX, Inc. の商標です。これらの商標は、DivX, Inc.の使用許諾を得て使用しています。

注 意

◆ レコーダー、またはパソコンで記録した DVD-R/DVD-RW ディスク、CD-R/CD-RWディスクを再生できないことがあります（原因：ディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、または結露など）。

◆ パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定、および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください(詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。

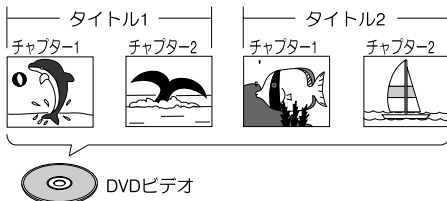
◆ パケットライト方式で記録されたディスクは再生できません。

◆ ファイナライズしていない DVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RW ディスクを再生することはできません。

◆ 詳しい CD-R/CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの使用上の注意をご覧ください。

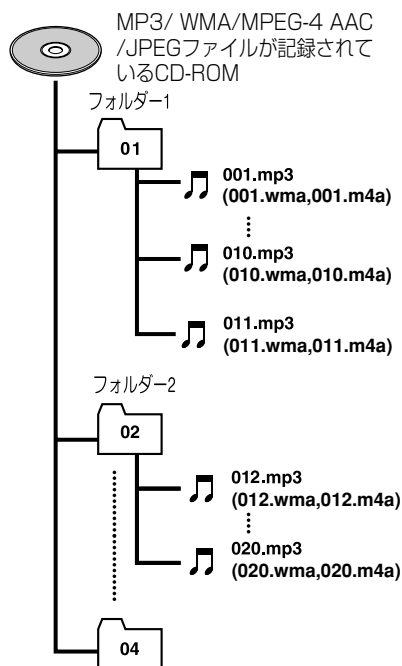
タイトルとチャプターについて

DVDではディスクをタイトルという単位で分け、さらにタイトルをチャプターという単位で分けています(DVDビデオにはメニュー映像が記録されているソフトがありますが、このメニュー映像はどのタイトルにも属していません)。
DVDビデオの映画ソフトなどでは、ふつう1つの映画が 1 つのタイトルに対応し、複数のチャプターで構成されています。また、カラオケソフトのように 1 曲が 1 タイトルとなっているディスクもありますし、このような区切りになっていないディスクもあります。

DVDビデオ

トラックについて

CDやビデオCDでは、ディスクをトラックという単位で分けています（一般的には、1 曲が 1 つのトラックに対応しています。またさらに、トラックがインデックスという単位で分けられている場合もあります)。

WMA/MP3/MPEG-4 AAC /JPEG について

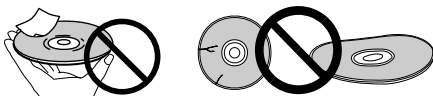
WMA/MP3/MPEG-4 AACのフォルダー/トラックの名前や、JPEG のフォルダー / ファイルの名前を表示することができます(半角英数字で入力された文字のみ)。半角英数字以外で入力されているフォルダー / トラック / ファイルの名前は[F_001]/[T_001]/[FL_001]のように表示されることがあります。

DVD/CD ディスクの取り扱いかた

保管

- 必ずケースに入れ、高温多湿の場所や直射日光の当たる場所・極端に温度の低い場所を避けて垂直に保管してください。
- ディスクに付いている注意書は必ずお読みください。

ディスクの取り扱い

- ディスクに指紋やホコリが付くと、再生ができなくなることがあります。このようなときは、クリーニングクロスなどで内周から外周方向へ軽く拭いてください。そのとき、汚れたクリーニングクロスは使用しないでください。

- ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。また、レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。
- 汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸してよく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で水気を拭き取ってください。
- 損傷のあるディスク(ひびやそりのあるディスク)は使用しないでください。
- ディスクの信号面にキズや汚れを付けないでください。
- ディスクに紙やシールなどを貼り付けないでください。ディスクにそりが発生し、再生ができなくなる恐れがあります。また、レンタルディスクはラベルが貼ってある場合が多く、のりなどがはみ出している恐れがありますので、のりなどのはみ出しがないことを確認してからご使用ください。
- ディスクを 2 枚重ねて再生しないでください。

特殊な形のディスクについて

本機では、特殊な形のディスク（ハート型や六角形など）は再生できません。故障の原因になりますので、そのようなディスクはご使用にならないでください。

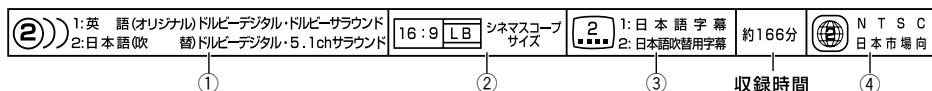
レンズのクリーニングについて

レンズにゴミやホコリがたまると、音飛びしたり画像が乱れたりすることがあります。このような場合は、**「保証とアフターサービス」**（90ページ）をお読みのうえ、清掃をご依頼ください。市販されているクリーニングディスクを使用するとレンズを破損する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

DVDのディスクジャケットについて

DVDビデオのディスクレーベルやディスクジャケットにはいろいろなマークが表記されています。これらのマークの意味を知っておくと、そのディスクがどのように記録されているかを読みとることができます。また、そのマークによって、本機で再生中に利用できる機能も異なります。
ここでは、DVD ビデオのディスクジャケットに表記されているおもなマークをご紹介します。

DVD ビデオ（DVD-VIDEO）のディスクジャケットの例

②))) 1:英　語(オリジナル)ドルビーデジタル・ドルビーサラウンド 2:日本語(吹　替)ドルビーデジタル・5.1chサラウンド	16：9 LB シネマスコープサイズ	2 1:日本語字幕 2:日本語吹替用字幕	約166分	② NTSC 日本市場向
①	②	③	収録時間	④

① ディスクに記録されている**音声の数と種類・音声トラック方式**を示しています(音声の切り換えは、35、52 ページをご覧ください)。
上記の場合、英語音声はドルビーサラウンド（ドルビープロロジックサラウンド）で、日本語音声は 5.1 ch のドルビーデジタルサラウンドで再生されます。

② 再生可能な**テレビ画面サイズや見えかた**を示しています。このディスクの場合、16：9の画面サイズの映像の左右が圧縮されて記録されおり、テレビの種類に合わせて本機の設定を合わせておくと、シネマスコープサイズの映像を楽しむことができます(51 ページ)。

③ ディスクに記録されている字幕の数と言語などの種類を示しています(字幕の切り換えは、35、52 ページをご覧ください)。
DVD ビデオでは最大 32 種類の字幕を記録することができます。

④ ディスクの**地域番号（リージョンナンバー）**です。
DVDプレーヤーとDVDビデオディスクには、発売地域ごとに地域番号（リージョンナンバー）が設定されています。再生するディスクに記載された地域番号がプレーヤーに設定された番号を含まない場合、そのディスクを再生することはできません。本機（日本向け）の再生可能地域番号は２番で、ディスクに記載された地域番号が２番を含むか「ALL」となっている場合に再生が可能です。

その他のマーク

舞台中継やスポーツ中継などでは、複数台のカメラで撮影している場合がほとんどです。DVDビデオでは、最大9つのカメラアングルで撮影された映像を同時に収録することができます。このマークが付いたDVDビデオでは、同一場面を複数のアングルから見て楽しむことができます（36 ページ）。

メ モ

▼ DVD ビデオの音声タイプは、「ドルビーデジタル」、「DTS」、「リニア PCM」の３つが現在主流となっています。

ドルビー デジタルとは. .* DOLBY DIGITAL

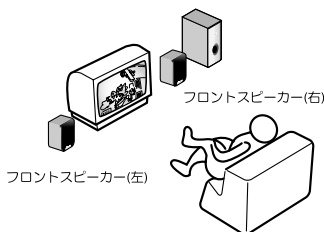
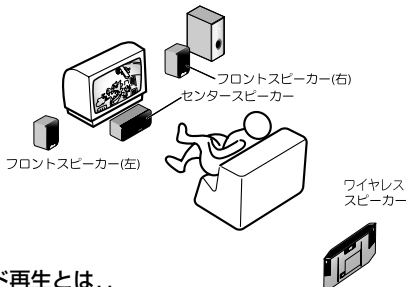
DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている 5.1 ch サラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1 ch サラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。

*DTS*** とは. .*

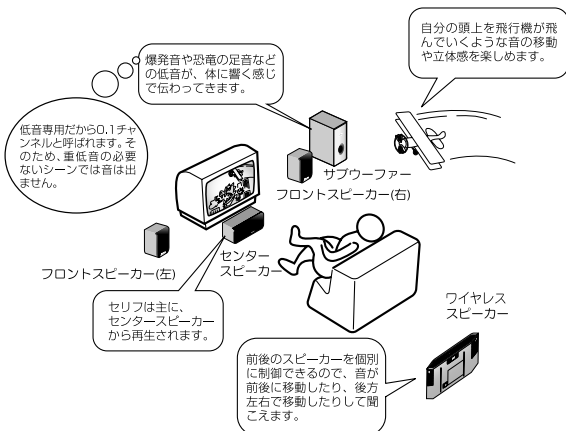
DTSとはデジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、5.1 chのデジタル･サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル･サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1 ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1 chで音声を楽しむことができます。

リニア PCM

音声の圧縮を行わない方式です。ミュージカルや音楽コンサートライブなどを収録したDVDビデオの場合によく使われます。48 kHz/16 bit、96 kHzなどの表示があることもあります。

- **ステレオ再生とは. .**
  左右２つのスピーカーとサブウーファーから別々の音声を再生することです。DVDビデオのステレオ音声や通常の音楽用CD（ステレオ２chで録音されています）は、５本のスピーカーとサブウーファーが接続されていても､音はフロントスピーカーとサブウーファーからしか再生されません。

- **ドルビープロロジックサラウンド再生とは. .**
  ソフトのパッケージにドルビーサラウンド(DOLBY SURROUND)と表記されているソフトを、５本(本システムはワイヤレススピーカーがサラウンドスピーカー2本分の働きをするため4本）のスピーカーとサブウーファーで再生することです。ただし、サラウンドスピーカーは左右同じ音（モノラル）で再生されます。（ドルビープロロジックII の場合は、ステレオで再生されます。）

- **ドルビーデジタル 5.1 ch または DTS サラウンド再生とは. .**
  ドルビーデジタル（5.1 chサラウンド）またはDTSサラウンドで記録されているソフトを、５本(本システムはワイヤレススピーカーがサラウンドスピーカー2本分の働きをするため4本）のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1 ch独立で音声が記録されているため､立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。

** ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています｡Dolby､ドルビー､Pro Logic､ダブルD記号及びAAC ロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。*

*** “DTS” および “DTS Digital Surround” は米国Digital Theater Systems, Inc. の登録商標です。米国 Digital Theater Systems, Inc. からの実施権に基づき製造されています。*

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率をいいます。従来サイズのテレビでは4:3ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは16:9の比率となっています。臨場感あふれる映像が楽しめるようになっています。

インターレース（飛び越し走査）
映像の1画面を半分ずつ2回に分けて描きます。最初に奇数番目の走査線を描き、目の残像を利用して、次に偶数番目の走査線を描いて1画面(フレーム)を表示します。従来のテレビの走査方式として採用されています。通常、解像度の数字の後ろに「i」を付けて（525 iなど）表記します。

映像出力（コンポジット）
輝度信号(Y)と色信号(C)を混合して1本のコードで伝送できるようにした信号です。ただし、入力機器側で混合された輝度信号(Y)と色信号(C)を分離しなければなりません。この輝度信号(Y)と色信号(C)を分離するときの精度で画質の良さが決まります。

視聴制限
暴力シーンなどを含むDVDの中には、視聴制限のレベル（大小）が設けられたものがあります。ディスクのレベルよりも小さいレベルに本機の視聴制限レベルを設定すると、暗証番号を入力しない限り再生ができなくなります。

ダイナミックレンジ
ダイナミックレンジとは、ディスクに記録されている音声レベルの最大値と最小値の差異のことです。ダイナミックレンジは、デシベル（dB）単位で測定されます。
ダイナミックレンジを圧縮する（オーディオDRC）と、最小の信号レベルが上がり、最大の信号レベルが下がります。これにより、破裂音のような強い音声信号が低減される一方、人の声などの低いレベルの音声信号がはっきりと聞こえるようになります。

デコード
ドルビーデジタル、DTS、MPEG-4 AACなどの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです。

ドルビープロロジックサラウンド再生
2 chサラウンド信号や2 chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2 chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2 chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を作り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックⅡサラウンド再生
ドルビープロロジックⅡは、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1 chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5 chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1 chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックⅡの違い

	プロロジック	プロロジックⅡ
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1 ch（サラウンドモノラル）	5.1 ch（サラウンドステレオ）
周波数特性	サラウンド 7 kHz帯域制限	全チャンネルフルバンド

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC付きビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のディスクや検索機能のあるディスクの再生が楽しめます。また、高/標準解像度の静止画も楽しむことができます。

プログレッシブ(順次走査)
映像の1画面を2回に分けずに1画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像がご覧になれます。通常、解像度の数字の後ろに「p」を付けて（525 pなど）表記します。

マルチアングル
通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ていますので、画像は撮影しているカメラの位置の視点でテレビ画面に表示されます。テレビスタジオなどでは数台のカメラで同時に撮影した映像の１つを番組ディレクターが選んで電波にのせて各家庭のテレビに送っていますので、視聴者側で視点(カメラ)を選ぶことはできません。DVDビデオには同時に複数のカメラで撮影したすべての映像が記録されているものがあり、プレーヤー側で自由に選ぶことができます。DVDビデオではアングルを最大9つまで記録することができます。

マルチ音声言語
DVDビデオの中には、1枚のディスクの中に複数の音声を持っているものがあります。DVDビデオでは音声を最大８言語(8ストリーム)まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチ字幕言語（サブタイトル）
映画などでおなじみの字幕の言語です。DVDビデオでは字幕の言語を最大32カ国語まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチセッション
CD-RやCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のCD-R/RWディスクに２つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

マルチボーダー
DVD-RやDVD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をボーダーといいます。マルチボーダーとは、1枚のDVD-R/RWディスクに２つ以上のボーダーデータを記録する方法のことです。

マルチチャンネルサラウンド再生
3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1 chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

リージョンNo. 2 ALL
DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに地域番号（リージョンNo.）が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンNo.は「2」です（本体後面部に表記されています）。

D端子
デジタル放送に対応したテレビなどの機器に装備されている映像信号（Y、CB/PB、CR/PR）と映像信号のフォーマットを識別する制御信号を１つのコネクタで接続する端子です。

DivX
DivXはDivX, Inc.が開発したメディア技術です。DivXのメディアファイルには圧縮された画像データが含まれます。また、DivXファイルはメニューや複数の字幕、音声の切り替えといった高度な再生機能をつけることも可能です。

DRMコピープロテクト
DRM（Digital Rights Management）コピープロテクトは著作権保護のための技術で、無許可の複製を防止するため録音時に使用したPCなどの機器以外での再生を制限するなどの機能です。詳しくは、録音に使用した機器・アプリケーションの取扱説明書やヘルプなどをご覧ください。

DVDビデオフォーマット記録
DVD VIDEO、またはDVD VIDEOマークの付いている市販のDVDビデオディスクと同じ方式(フォーマット)でDVD-R/RW/R DL（2層ディスク）ディスクに一筆書きのように記録することをいいます。パイオニアのDVDレコーダーではこれをビデオモード記録といいます。ビデオモードには、高画質に録画するモードと、長時間録画するモードがあります。

Exif
Exchangeable Image File Formatの略でエグジフと読みます。富士写真フイルム（株）が開発したデジタルスチールカメラ用のファイルフォーマットです(JEIDA規格)。撮影日などの撮影や画像に関する情報とサムネイル画像が収録できるように拡張されているファイルフォーマットです。

GUI
Graphical User Interfaceの略です。画面にメニューを表示し、それを操作することでより使いやすい環境を提供します。

JPEG
JPEGとは、ITU-TS（国際電気通信連合：旧CCITT）とISO（国際標準化機構）で定められた、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式（画像フォーマット）のひとつです。JPEG形式の画像ファイルには「.jpg」という拡張子が付きます。デジタルカメラで撮った写真などもほとんどJPEG形式で保存されています。

MP3
MP3とは、MPEG1オーディオレイヤー３というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.mp3」という拡張子の付いたファイルをMP3ファイルと呼びます。拡張子とは、OSやアプリケーションソフトで管理されているファイルの種類を表す文字符号です。ピリオドと３文字のアルファベットで構成されています。

MPEG
Moving Picture Experts Groupの略でエムペグと読みます。これは動画音声圧縮方法の国際標準です。
DVDビデオの映像やビデオCDの映像/音声は、この方式で記録されています。DVDビデオの中には、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

MPEG-4 AAC
AACとは「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。
AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunes® を使用してエンコードされた、拡張子が「.m4a」のAACファイルの再生に対応しています。ただし、DRMコピープロテクト（著作権保護）のかかったファイルやエンコードするiTunesのバージョンによっては再生できないことがあります。
iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

MPEG-2 AAC
MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

PCM

Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない2チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式のひとつでもありますが、CDのサンプリング周波数が44.1 kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48 kHzや96 kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

VRモード(ビデオレコーディングフォーマット)記録

映像、および音声信号をDVDレコーダーでDVD-R/RWディスクの不特定な位置に即時書き込み*することをいいます。(*即時書き込み＝パソコンでは、入力されたデータをすぐにハードディスク(リムーバブルメディア)に書き込まず、一度メモリーに記憶します。その後、CPU(OS)が順番を整理してハードディスクに書き込みます。これに対して、データが入力された順にハードディスクに書き込んでいくことを即時書き込みといいます。)
パイオニアのDVDレコーダーではこれをVRモード記録といいます。VRモードには、標準な画質で録画するモードと画質、および録画時間を自由に設定して録画するモードがあります。

WMA

「Windows Media®Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、7, 7.1, Windows Media Player for Windows XP、またはWindows Media 9 Seriesを使用してエンコードすることができます。
Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
WMAファイルは、米国Microsoft Corporationより認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

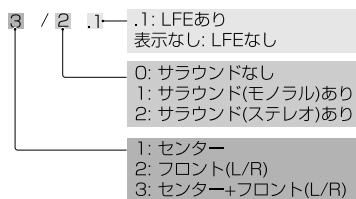
3/2.1CH

3/2.1はディスクに記録されているチャンネル数を表しています。

例）5.1CHの場合

- フロントチャンネル[L(1CH)/R(1CH)]
- センターチャンネル[(1CH)]
- サラウンドチャンネル[L(1CH)/R(1CH)]
- LFE*1 チャンネル[1CH × 0.1*2 = 0.1CH]

*1: 重低音強調効果の意
*2: 音声全体に対して低音が占める割合

GUI画面には下記のように表示されます。

こんな表示が出たときは

操作中に点滅表示が出たときは、以下をご覧ください。

(本体表示部) **KEYLOCK**

59ページのキーロック機能がセットされているときに、本機の操作ボタンを使用すると、表示されます。キーロック機能がセットされているときは、本体の操作ボタンは使用することはできません。解除してから操作してください。

(本体表示部) **PHONESIN**

ヘッドホンを挿入しているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・テストトーン　・MCACC　・ワイヤレス

(本体表示部) **96K**

88.2 kHz/96 kHz リニア PCM 信号を入力しているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド　・アドバンスド
・サウンドレトリバー

(本体表示部) **MUTING**

ミューティング中に**テストトーンボタン**または **MCACC ボタン**を押すと表示されます。

(本体表示部) **EXIT**

各種メニューを表示中に、そのメニューを表示することが禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。

(本体表示部) **TRAYLOCK**

ディスクテーブルがロックされています。**⏏OPEN/CLOSE ボタン**を 8 秒以上押して、「LOCK OFF」を表示させると、ディスクテーブルを開閉することができます。

(本体表示部) **SND.DEMO**

デモモードに入っています。本体の**■ボタン**を 5 秒間押し続けてください。ディスクテーブルが自動的に開いてサウンドデモモードが解除されます。

(本体表示部) **USB ERR**

USBメモリーの消費電力が大きすぎて電力が供給できません。23ページの「注意」のすべての項目を確認、実行してください。

(本体表示部) **EEP ERR**

故障の可能性があります。お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

(本体表示部) **STEREO**

TUNER 入力時に以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド　・アドバンスド
・MCACC

(本体表示部) **2CH ONLY**

マルチチャンネル音声を再生中に**サウンドレトリバーボタン**を押すと表示されます 。

(本体表示部) **W. STEREO**

ワイヤレスモードが「STEREO」に設定されているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド　・アドバンスド
・テストトーン　・MCACC
・サウンドレトリバー

サラウンドの自動設定（MCACC）でこんな表示が出たときは

(本体表示部) **NOISY**

部屋の騒音レベルが大きいときに表示されます。部屋を静かにしてからやり直してください。

(本体表示部) **ERR MIC**

セットアップ用マイクが接続されていません。セットアップ用マイクを接続してからやり直してください。

(本体表示部) **ERR SP**

接続されていないスピーカーがあります。すべてのスピーカーを接続し、配置してからやり直してください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用のテレビなどもあわせてお調べください。下記の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

症状	原因 / 対策	参照ページ
すべてに共通		
音が出ない。	• すべてのコードが完全に接続されていますか？接続のしかたを参照して、正しく接続してください。 • スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • ミューティング状態になっていませんか？リモコンの**消音ボタン**を押してください。 • 音量がゼロになっていませんか？音量を調整してください。 • ディスクが汚れていませんか？ディスクをクリーニングしてください。 • 一時停止、コマ送り、またはスローなどの再生をしていませんか？ • ヘッドホンが挿入されていませんか?ヘッドホンを抜いてください。	セットアップガイド セットアップガイド 17 ページ 17 ページ 73 ページ 19~20 ページ 13 ページ
ワイヤレスまたはセンタースピーカーから音が出ない。 テストトーンが出ない。	• スピーカーは正しく接続されていますか？もう一度接続を確認してください。 • ステレオ音声出力**2.1ch**になっていませんか？リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生**5.1ch**にしてください。 • TUNER 入力になっていませんか？ TUNER 入力時はサラウンド再生できません。 • チャンネルの出力レベルは調整されていますか？出力レベルを調整してください。 • ディスクの再生音声はマルチチャンネル音声を選択していますか？音声を切り換えてください。 • ワイヤレススピーカーのTUNEDインジケーターは点灯していますか？トランスミッターのチャンネル選択ボタンを押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。 • 本体の音量が 0 になっていませんか？ワイヤレススピーカーの音量は本体側で調節します。 • ワイヤレスモードが「STEREO」になっていませんか？「NORMAL」「WIDE」「LEFT」「RIGHT」のいずれかに設定してください。	セットアップガイド 43 ページ 57 ページ 35 ページ
設定した内容が消えてしまった。	• 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体の⏻**STANDBY/ONボタン**、またはリモコンの⏻**電源ボタン**を押して、表示窓の[GOOD BYE]表示が消えてから抜いてください。特に他機器のACアウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。	

症状	原因 / 対策	参照ページ
本体の操作ボタンを押しても動作しない。	• キーロック機能が、オンに設定されていませんか？キーロック機能をオフに設定してください。	62 ページ
DVD/CD 関係		
画面が止まり、操作ボタンを受け付けない。	• 本体の内部が結露していませんか?しばらく放置してください。 • 一度、■**ボタン**を押してから、もう一度再生してください。	73 ページ
ディスクテーブルを閉めても出てきたり、再生ができない。	• ディスクが極端に汚れていませんか?ディスクをクリーニングしてください。 • ディスクはディスクテーブルに正しくセットされていますか？ディスクを正しくセットしてください。 • リージョンNO.は一致していますか？リージョン「2」か「ALL」のディスクを使用してください。リージョンNO.の違うDVDディスクを再生すると「本機とディスクのリージョンNO.（地域番号）が違うので再生できません」とテレビ画面に表示されます。 • ディスクを表裏逆に入れていませんか?ディスクを正しくセットしてください。	10 ページ 74,77 ページ 10 ページ 52 ページ 74 ページ
映像が映らない。	• プログレッシブ入力に対応していないテレビとD映像接続(63ページ)しているときに**[プログレッシブ]**を選択していると映像が正常に出力されません。映像が何も表示されなくなった場合は付属のビデオコードで接続してから、映像出力方式を**[プログレッシブ]**から**[インターレース]**に変更してください。（52 ページ） • ビデオコードは十分差し込まれていますか？しっかりと差し込んでください。 • 接続しているビデオコードが断線していませんか？ビデオコードを変えて接続してみてください。	
DVD の音声や字幕が切り換わらない。	• ディスクには複数の字幕や音声が記録されていますか？DVDディスクのジャケットを確認してください。 • リモコンの**音声ボタン**や**字幕ボタン**で切り換わらないDVDディスクがあります。そのときは、DVDのメニュー画面で切り換えてください。	53 ページ 51 ページ
画面が縦または横に伸びる、またはアスペクトが切り換わらない。	• テレビ画面とのアスペクト比の設定は合っていますか？テレビ画面のアスペクト比の設定をしてください。	
DVD 再生中に画像が乱れる、または暗い。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを再生した場合、テレビによっては一部画像に横じまが入るなどの症状が出るものもありますが、故障ではありません。	
DVD 映像をＶＴＲに録画したり、VTRを通して再生すると再生画像が乱れる。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生したり、VTRに録画して再生するとコピーガードシステムにより正常に再生されません。	

症状	原因 / 対策	参照ページ
DVD と CD で音量差を感じる。	• これはディスクの記録方式の違いによるものです。故障ではありません。	
本機をビデオ内蔵テレビに接続してDVDを再生すると映像が乱れる。	• ビデオ内蔵テレビの機種によっては、コピーガードの働きにより正常に再生されないことがあります。詳しくは、お使いのテレビメーカーにお問い合わせください。	
USB 関係		
USB マスストレージ機器を認識しない。	• 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 • USBメモリーは正しく接続されていますか?USB端子に正しく挿入してください。 • USB メモリーのフォーマットはFAT16、FAT32 に対応していますか?フォーマットをご確認ください。 • USB ハブには対応しておりません。	22 ページ
USB メモリー再生中に正しい表示を行わない。	• USB メモリーのファイル名に日本語が含まれていませんか?日本語の表示には対応していません。 • USB メモリーのデータにセキュリティが施されていませんか?暗号化やパスワードでの保護がされていないかご確認ください。	23 ページ
USB メモリーのファイルを再生することができない。	• ファイルにDRMコピープロテクト(著作権保護)がかかっていませんか? DRM コピープロテクト(著作権保護)のかかったWMAやMPEG-4 AACのファイルは再生することができません。パソコンなどでCD などを音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります。	70~72 ページ
放送関係		
放送が聞こえない、聞き苦しい。	• アンテナは接続されていますか?アンテナを正しく接続してください。 • アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか?アンテナの向きや位置を調整してください。 • 電気器具(蛍光灯、ドライヤーなど)を使用していませんか?雑音を発生させる機器の使用をやめてください。 • アンテナとトランスミッターの距離が近いと受信状態に影響することがあります。距離を離してみてください。	セットアップガイド セットアップガイド
FM放送がステレオなのにステレオにならない。	• 表示部のモノインジケーターが点灯していませんか? "FM MODE" の設定を AUTO にしてください。	25 ページ
外部機器関係		
デジタルチューナーからの音が、マルチチャンネル再生にならない。	• デジタル接続されていますか?市販の光ケーブルで正しく接続してください。 • デジタルチューナー(または BS デジタルチューナー内蔵テレビ)の音声出力設定で、MPEG-2 AAC 信号を出力するように設定してください。 • 放送がマルチチャンネル放送(5.1 ch)ですか?ステレオ放送やモノラル放送のときは、リスニングモードを 5.1ch のモードに切り換えて、マルチチャンネル再生にしてください。	64 ページ 43~45 ページ

症状	原因 / 対策	参照ページ
	ワイヤレススピーカー関係	
接続した外部機器からの音が出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • **LINE ボタン**を押して、入力を切り換えてください。	**64 ページ** **64 ページ**
ワイヤレススピーカーの音声が途切れる。	• 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れ過ぎていませんか？電波の届く範囲でご使用ください。 • 電気雑音の発生しやすいところで使用していませんか？設置場所を変えてみてください。 • 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用していませんか？同じチャンネルにならないようにチャンネルを変えてみてください。	
ワイヤレススピーカーの音声が突然途切れるようになった。	• 近くに同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器が作動していませんか？設置場所を変えてみてください。	
トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。	• 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。	
トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。	• トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられている AV 機器がありませんか？トランスミッターを AV 機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。	
	その他	
リモコンがきかない。	• リモコンの電池はなくなっていませんか？新しい電池に換えてください。 • 蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか？蛍光灯をリモコン受光部から離してください。 • 7 m以内、左右30°以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。 • 本機とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか?障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。 • MCACCセットアップ用マイクをコントロール端子に接続していませんか？接続を確認してください。 • SR+ ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。	**セットアップガイド** **13 ページ** **13 ページ** **9 ページ、セットアップガイド**

症状	原因 / 対策	参照ページ
「SND. DEMO」と表示され本機の操作ができない。	• 本体の ■ **ボタン**を 5 秒間押し続けてください。ディスクテーブルが自動的に開いてサウンドデモモードが解除されます。	
設定した内容が、すべてクリアされている。	• 2、3 日、電源コードを抜いたままにしておくと、設定した内容はクリアされてしまいます。再設定してください。	
動作しない。	• 電源コードが外れていませんか？電源コードを正しく接続してください。	セットアップガイド
電源が入らない、または電源が突然オフになった。(再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります)	• 電源コードを抜かずに、1 分後に再び⏻ **電源ボタン**を押して電源を入れてみてください。 • スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • 本体の周りに十分なスペースが空いていますか？風通しが良くなるように設置を変えてみてください。 • 音量を下げて使用してみてください。 • 上記を行っても症状が改善されないときは、最寄りの弊社サービスステーションに連絡してください。	セットアップガイド 5 ページ

• 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

マルチチャンネル再生にならないときは

マルチチャンネル（5.1 ch）再生にならないときは、以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。

1. サラウンドボタンを押して、オートモードを選択します （43ページ）

再生している音声に応じたサウンドモードに自動で切り換わります。

2. ワイヤレスボタンを押して「STEREO」または「OFF」以外を選択します

「(W)」インジケーターが点灯します。

3. テストトーンを出力します（58ページ）

すべてのスピーカーからテストトーン（ザーという音）が出力されていることを確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続をもう一度確かめてから、もう一度テストトーンを出力してみてください。

4. 5.1ch のリスニングモードを選択します（43～45ページ）

ステレオソースもマルチチャンネルにして再生します。

メ モ

▼ 複数の音声が収録されているDVDディスクの場合、再生している音声によって、ステレオ再生またはマルチチャンネル再生になります。（35、74ページ）

注　意

この製品はJIS C 6802規格の基で評価されたクラス1レーザ製品ですが、内部にはクラス1のレベルを超える危険なレーザ放射があります。
分解や改造などは絶対に行わないでください。

クラス1
レーザ製品

危険なレーザ放射に接する恐れのある部分には、以下の注意文表示があります。

注意
ここを開くと CLASS 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないこと。
ARW7316-A

D3-7-12-5-5_Ja

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

次のような場所は避けてください

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

本機を移動する場合

本機を移動する場合は、必ずディスクを取り出しディスクテーブルを閉じてください。さらに本体の⏻**STANDBY/ON ボタン**(またはリモコンの⏻**電源ボタン**)を押し、表示窓の[GOOD BYE]表示が消えてから電源コードを抜いてください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受(無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること)にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記②に示すような機器もあります。

① 2.4 GHz を使用する主な機器の例
- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレスAV機器（当社ワイヤレススピーカーを含む）
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

② 存在がわかりにくい2.4 GHzを使用する主な機器の例
- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音が途切れて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機のTUNEDインジケーターが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。
- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する
- トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります
- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります）
- テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

- 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 分解 / 改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

①「4」 想定される与干渉距離(約40 m)を表します
②「DS」 変調方式を表します
③「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域（2.4 GHz）では、無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）及び、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。
  本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

使用範囲について

● ご家庭内での使用に限ります。
(通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声が途切れたり停止したりします

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。尚、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。
- 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用した場合。

電波の反射について

● ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声が途切れたりすることがあります。

注 意

◆ お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

● 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。
電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

● 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

初期設定一覧

視聴制限のお買い上げ時の設定は、暗証番号未設定、レベル変更オフ、国/地区コードは日本の設定となっています。

本機では、画面表示にNECのフォント「Font Avenue」を使用しています。
Font AvenueはNECの登録商標です。

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す

1. **電源オン中に本体の▶/II USBボタンを押しながら⏻STANDBY/ONボタンを押して、電源をオフにします**

2. **本体の⏻STANDBY/ONボタンを押します**

STANDBY/ON

電源がオンになり、設定した内容がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

注 意

◆ 初期化すると、記憶していたすべてのメモリーが同時に消去されます。初期化するときは十分にご注意ください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、別添の修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

81～85ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの修理を依頼されるときは、トランスミッターとワイヤレススピーカーを2つ1組としてご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DVD 5.1 ch サラウンドシステム
- 型番：HTZ-555DV
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ お願い：

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

**長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。
こんな症状はありませんか？**

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

DVD/CD レシーバー部 (XV-DV555)

■ アンプ部

実用最大出力（JEITA）
　フロント、センター、サラウンド
　（1 kHz、10 %、4 Ω）
　... 60 W / CH
　サブウーファー（100 Hz、10 %、4 Ω）
　... 60 W

■ DVD 部（音声）

周波数特性
　48 kHz サンプリング ...... 4 Hz ～ 22 kHz
　96 kHz サンプリング ...... 4 Hz ～ 44 kHz
ワウ・フラッター .... 測定限界以下
（± 0.001 % W.PEAK）

■ DVD 部（映像）

映像出力
出力レベル ... 1 Vp-p（75 Ω負荷時、同期負）
出力端子 .... RCA 端子
S2 映像出力
映像 Y 出力レベル .... 1 Vp-p（75 Ω）
映像 C 出力レベル .... 286 mVp-p（75 Ω）
出力端子 .... S 端子
D1/D2 映像出力（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）
映像 Y 出力レベル .... 1 Vp-p（75 Ω）
映像 C_B/P_B、C_R/P_R 出力レベル
.... 0.7 Vp-p（75 Ω）
出力端子 .... D 端子

■ チューナー部

FM チューナー部
　受信周波数 .... 76.0 MHz ～ 90.0 MHz
　アンテナ .... 75 Ω不平衡型
AM チューナー部
　受信周波数 .... 522 kHz ～ 1629 kHz
　アンテナ .... ループアンテナ

■ 電源部

電源電圧 .... AC100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 .... 44 W
スタンバイ消費電力 .... 0.26 W

■ その他

外形寸法 .... 420 mm X 60 mm X 330 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 3.1 kg
許容動作温度 .... ＋ 5 ℃～＋ 35 ℃
許容動作湿度
.... 5 %～ 85 %(結露のないこと)

スピーカーシステム部 (S-DV555)

フロントスピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
　フルレンジ .... 7.7 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 4 Ω
再生周波数帯域 .... 80 Hz ～ 20 000 Hz
最大入力 .... 60 W（JEITA）
外形寸法 .... 100 mm X 136 mm X 80 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 0.55 kg

センタースピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
　フルレンジ .... 7.7 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 4 Ω
再生周波数帯域 .... 75 Hz ～ 20 000 Hz
最大入力 .... 60 W（JEITA）
外形寸法 .... 270 mm X 96 mm X 90 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 0.78 kg

サブウーファー
型式 .... バスレフ式フロア型
使用スピーカー
　ウーファー .... 16 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 4 Ω
再生周波数帯域 .... 30 Hz ～ 2500 Hz
最大入力 .... 60 W（JEITA）
外形寸法
.... 190 mm X 360 mm X 320 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 4.0 kg

ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-06)

ワイヤレススピーカー

電源 ………………… AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 ………………………………………… 30 W
アンプ
　実用最大出力（JEITA） …………… 10 W/ch
　……………………（1 kHz, THD 10 %, 4 Ω）
スピーカーユニット … 7 cm（コーン型）X 2
質量 ………………………………………………… 2.9 kg
外形寸法
……….. 461.5 mm X 176.5 mm X 95 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

トランスミッター

AC アダプター
　電源 …………… AC 100 V、50 Hz/60 Hz
　定格 ………………………………………………… 9 VA
　定格出力 ………………… DC12 V/300 mA
消費電力（本体のみ） ……………………… 2 W
入力 …………………………………… RCA ジャック
質量 ………………………………………………… 0.3 kg
外形寸法 …. 166 mm X 56 mm X 112 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

■ 付属品

DVD/CD レシーバー部

リモコン ………………………………………………… 1
AM ループアンテナ ………………………………… 1
FM 簡易アンテナ …………………………………… 1
ビデオコード （1.5 m） ………………………… 1
単３形乾電池※（AA/R6）※動作確認用 …………… 2
MCACC セットアップ用マイク ………………… 1
電源コード …………………………………………… 1
保証書 ………………………………………………… 1
取扱説明書
　本編（本書）
　システムセットアップガイド

スピーカー部

スピーカーコード
　（4 m / フロントスピーカー用） …………… 2
　（4 m / センタースピーカー用） …………… 1
　（4 m / サブウーファー用） …………………… 1
滑り止めパッド（小） ……………………………… 12
滑り止めパッド（大） ……………………………… 4

ワイヤレススピーカー部

オーディオコード …………………………………… 1
AC アダプター ………………………………………… 1
電源コード …………………………………………… 1
コーションラベル …………………………………… 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車輌、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

結露について

● 冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部やレンズ)に水滴が付きます(結露)。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて１～2時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。
夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

サービスステーションリスト

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆仙台サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目346-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原4-27-9　中島ICハイツ1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙1-5-23
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田339-1　金田コーポフロンテア201
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362	金沢市古府1丁目178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区				受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆大阪サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪北サービス認定店	FAX	06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区				受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆広島サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35　商船ビル1F

●九州地区				受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く） ☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）
☆福岡サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町5丁目1-1
鹿児島サービスステーション	FAX	099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル2F
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県				受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
沖縄サービスステーション	TEL FAX	098-879-1910 098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター3F

平成18年1月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要さない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先)カスタマーサポートセンター:フリーフォン 0070-800-8181-22

http://www.pioneer.co.jp/support/

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070－800－8181－22　■一般電話　03－5496－2986

■ファックス　03－3490－5718

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81028（ゴーハーイオニア）　■一般電話　03－5496－2023

■ファックス　0120－5－81029

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098－879－1910

■ファックス　098－879－1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81095　■一般電話　0538－43－1161

■ファックス　0120－5－81096

平成18年1月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.016

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<06C000001>　<ARA7222-B>